

市内遺跡試掘調査報告書2

団体営ほ場整備事業に伴う試掘調査報告書

亀の甲Ⅰ遺跡
亀の甲Ⅱ遺跡
大橋遺跡
宝殿塚遺跡
山ノ端遺跡
八幡原遺跡（薬師廃寺）

二〇二三年三月

2023年3月

愛媛県西条市教育委員会

市内遺跡試掘調査報告書 2

団体営ほ場整備事業に伴う試掘調査報告書

亀の甲Ⅰ遺跡

亀の甲Ⅱ遺跡

大橋遺跡

宝殿塚遺跡

山ノ端遺跡

八幡原遺跡（薬師廃寺）

2023年3月

愛媛県西条市教育委員会

序 文

西条市が飯岡亀の甲地区において、効率的かつ安定した農業経営を確立するためには、場整備事業を計画しましたが、事業区域に埋蔵文化財包蔵地が広がっていることから、西条市教育委員会では、同地区の試掘調査を実施しました。

調査は、平成 28 年度から令和 3 年度にかけて断続的に行い、古代・中世を中心とする時期の遺構・遺物を確認することができました。本書は、その調査成果についてまとめた報告書です。

限られた範囲での調査ではありますが、西条市の豊かな地域史を考えるうえでの貴重な資料を得ることが出来ました。本書が文化財の普及・啓発・調査・研究の一助となれば幸いです。

なお、市教育委員会では、今回の調査成果を基に今後も農政部局と協議を行い、事業の円滑化と適切な文化財保護に努めてまいります。

最後になりましたが、調査に際しご指導とご協力をいただきました関係機関及び地権者・地元の方々に心から御礼を申し上げます。

令和 5 年 3 月

西条市教育委員会
教育長 伊藤 隆志

例 言

- 1 本書は、平成 28 年度～令和 3 年度にかけて団体営ほ場整備事業に伴い断続的に実施した、埋蔵文化財の試掘調査の報告書である。
- 2 試掘調査及び報告書作成は、国庫補助事業として西条市教育委員会が実施した。
- 3 図中で示す北は、座標北である。
- 4 土層・遺物の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）を使用した。
- 5 挿図各々の縮尺率については、各図にスケール・縮尺率を明示している。
- 6 出土遺物及び関係資料は、西条市教育委員会で保管している。
- 7 試掘調査から報告書作成にいたるまで下記の機関・方々にご指導・ご助言・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表する。（敬称略）
西条市飯岡公民館、西条市立西条郷土博物館、原八幡神社
亀田 修一
- 8 本書の編集・執筆は岡島が行った。

本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2
第3節 調査の体制	4
第2章 調査地の位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	6
第3節 既往の調査	10
第3章 調査成果	11
第1節 調査の方法	11
第2節 亀の甲Ⅰ遺跡	13
第3節 亀の甲Ⅱ遺跡	16
第4節 大橋遺跡	18
第5節 宝殿塚遺跡	19
第6節 山ノ端遺跡	20
第7節 八幡原遺跡（薬師廃寺）	21
第8節 遺跡の広がらない調査区	24
第4章 総括	27
第1節 各遺跡の評価	27
第2節 八幡原遺跡（薬師廃寺）について	27

挿 図 目 次

図 1	試掘調査地位置図	1	図 19	山ノ端遺跡調査区位置図	21
図 2	西条市位置図	5	図 20	山ノ端遺跡 土層断面図	21
図 3	明治 41 年の亀の甲地区周辺の地形	6	図 21	八幡原遺跡(薬師廃寺)調査区位置図	22
図 4	地形分類図	7	図 22	八幡原遺跡(薬師廃寺) 平・断面図	22
図 5	主要遺跡分布図	8	図 23	八幡原遺跡(薬師廃寺) 出土土器	23
図 6	調査区位置図	12	図 24	八幡原遺跡(薬師廃寺) 出土瓦	23
図 7	亀の甲 I 遺跡調査区位置図	13	図 25	遺跡の広がらない調査区 土層断面図①	24
図 8	亀の甲 I 遺跡 平・断面図①	14	図 26	遺跡の広がらない調査区 土層断面図②	25
図 9	亀の甲 I 遺跡 平・断面図②	15	図 27	遺跡の広がらない調査区 土層断面図③	26
図 10	亀の甲 I 遺跡 平・断面図③	16	図 28	遺跡の広がらない調査区 出土遺物	26
図 11	亀の甲 I 遺跡 出土遺物	16	図 29	原八幡神社付近表採土器	28
図 12	亀の甲 II 遺跡調査区位置図	16	図 30	原八幡神社付近表採軒丸瓦	28
図 13	亀の甲 II 遺跡 平・断面図	17	図 31	原八幡神社付近表採軒平瓦	29
図 14	亀の甲 II 遺跡 出土遺物	18	図 32	原八幡神社付近表採丸瓦	30
図 15	大橋遺跡調査区位置図	18	図 33	原八幡神社付近表採平瓦①	31
図 16	大橋遺跡 平・断面図	19	図 34	原八幡神社付近表採平瓦②	32
図 17	宝殿塚遺跡調査区位置図	19	図 35	八幡原遺跡(薬師廃寺)の瓦の散布範囲と 周辺に残る寺院に関する小字	33
図 18	宝殿塚遺跡 平・断面図	20			

挿 表 目 次

表 1	調査体制一覧	4	表 4	遺物観察表(軒平瓦)	34
表 2	遺物観察表(土器)	34	表 5	遺物観察表(丸瓦)	34
表 3	遺物観察表(軒丸瓦)	34	表 6	遺物観察表(平瓦)	34

写 真 目 次

本文中写真			6	6 tr 南壁
写真 1	調査風景	2	7	7 tr 東壁
写真 2	調査区設置状況	11	8	8 tr 東壁
写真 3	重機による掘削状況	11	写真図版 2	亀の甲 I 遺跡
写真 4	測量風景	11	1	9 tr 東壁
写真 5	埋め戻し(ランマによる転圧)状況	11	2	10tr 東壁
写真 6	宝殿塚遺跡 67tr 溝出土瓦	19	3	11tr 東壁
写真 7	八幡原遺跡(薬師廃寺) 98tr 柱穴出土瓦	23	4	12tr 東壁
			5	13tr 西壁
写真図版 1	亀の甲 I 遺跡		6	19tr 東壁
1	1 tr 東壁		7	29tr 南壁
2	2 tr 東壁		8	30tr 西壁
3	3 tr 東壁		写真図版 3	亀の甲 I 遺跡
4	4 tr 東壁		1	31tr 東壁
5	5 tr 東壁		2	32tr 西壁

- 3 33tr 西壁
 - 4 34tr 西壁
 - 5 35tr 西壁
 - 6 36tr 西壁
 - 7 36tr 遺構検出状況
 - 8 38tr 西壁
- 写真図版4 亀の甲Ⅰ遺跡・出土遺物
- 1 41tr 西壁
 - 2 41tr 遺構掘削状況
 - 3 44tr 西壁
 - 4 50tr 北壁
 - 5 51tr 西壁
 - 6 52tr 東壁
- 写真図版5 亀の甲Ⅱ遺跡
- 1 22tr 東壁
 - 2 22tr 遺構掘削状況
 - 3 23tr 西壁
 - 4 24tr 西壁
 - 5 25tr 西壁
 - 6 26tr 西壁
 - 7 27tr 東壁
 - 8 28tr 東壁
- 写真図版6 亀の甲Ⅱ遺跡・出土遺物
- 1 39tr 西壁
 - 2 40tr 西壁
 - 3 42tr 西壁
 - 4 61tr 東壁
 - 5 65tr 西壁
- 写真図版7 大橋遺跡・宝殿塚遺跡
- 1 64tr 東壁
 - 2 64tr 遺構掘削状況
 - 3 宝殿塚遺跡近景
 - 4 66tr 北壁
 - 5 67tr 西壁
 - 6 67tr 遺構検出状況
 - 7 68tr 東壁
- 写真図版8 山ノ端遺跡
- 1 75tr 東壁
 - 2 75tr 遺構検出状況
 - 3 77tr 西壁
 - 4 86tr 西壁
 - 5 87tr 西壁
- 写真図版9 八幡原遺跡（薬師廃寺）
- 1 91tr 西壁
 - 2 91tr 遺構検出状況
 - 3 92tr 東壁
 - 4 93tr 東壁
 - 5 94tr 西壁
 - 6 94tr 遺構検出状況
 - 7 95tr 南壁
- 8 96tr 西壁
- 写真図版10 八幡原遺跡（薬師廃寺）・出土遺物
- 1 98tr 東壁
 - 2 98tr 遺構検出状況
 - 3 99tr 西壁
 - 4 99tr 遺構検出状況
- 写真図版11 遺跡の広がらない調査区
- 1 16tr 南壁
 - 2 17tr 東壁
 - 3 18tr 西壁
 - 4 20tr 西壁
 - 5 21tr 東壁
 - 6 37tr 西壁
 - 7 43tr 西壁
 - 8 45tr 西壁
- 写真図版12 遺跡の広がらない調査区
- 1 46tr 東壁
 - 2 48tr 西壁
 - 3 49tr 東壁
 - 4 53tr 西壁
 - 5 54tr 西壁
 - 6 55tr 南壁
 - 7 57tr 南壁
 - 8 58tr 南壁
- 写真図版13 遺跡の広がらない調査区
- 1 59tr 南壁
 - 2 62tr 東壁
 - 3 63tr 東壁
 - 4 69tr 南壁
 - 5 70tr 南壁
 - 6 71tr 北壁
 - 7 74tr 北壁
 - 8 76tr 東壁
- 写真図版14 遺跡の広がらない調査区
- 1 78tr 北壁
 - 2 79tr 西壁
 - 3 82tr 西壁
 - 4 83tr 東壁
 - 5 84tr 東壁
 - 6 85tr 西壁
 - 7 88tr 西壁
 - 8 90tr 東壁
- 写真図版15 遺跡の広がらない調査区・出土遺物
- 1 100tr 東壁
 - 2 101tr 南壁
 - 3 102tr 北壁
- 写真図版16 原八幡神社周辺の表採遺物
- 写真図版17 原八幡神社周辺の表採遺物
- 写真図版18 原八幡神社周辺の表採遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

平成27年度に西条市教育委員会社会教育課（以下、社会教育課）は、愛媛県東予地方局農村整備課と西条市農林土木課西部分室（以下、農林土木課。現、農業基盤整備課）より西条市飯岡亀の甲地区では場整備の計画があると相談を受けた。ほ場整備予定区域には周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、包蔵地）である「亀の甲遺跡」（試掘調査当時の名称、調査後「亀の甲Ⅰ遺跡」に名称変更）が含まれている。このことから、包蔵地内及びその隣接地で土木工事を実施する場合は、試掘調査により事前に遺跡の広がりを確認する必要があることを伝えた。試掘調査によって遺跡の存在が確認され、それらが保護できない場合は文化財保護法に基づき、本発掘調査が必要となることを説明した。それをうけて農林土木課から、社会教育課に事業実施前の試掘調査の依頼があった。

社会教育課では試掘調査に係る予算措置を進め、平成28年度から文化庁の国庫補助事業として試掘調査を実施することとなった。

当初のほ場整備予定区域は、亀の甲集落の北西側のみで、その試掘調査は平成28年度中に完了した。しかし、同年度末頃に一般国道11号を挟んだ南側でも事業の予定があるとの説明を受けた。平成28年度の調査成果から遺跡の広がる可能性が考えられたため、新たに試掘調査の必要性を説明し、平成30年度に調査を行うこととなった。また、同年度にさらなる事業の見直しによって、当初予定地西側の原八幡神社周辺もほ場整備範囲に追加する可能性が示唆された。周辺には「原八幡神社裏遺跡」、「薬師廃寺」（いずれも試掘調査当時の名称、調査後「八幡原遺跡（薬師廃寺）」に統合）が存在しており、遺跡の広がりを確認するために再度追加の試掘調査を平



図1 試掘調査地位置図

成 31 年度に実施した。これにより、ほ場整備予定地内の試掘調査はいったん完了し、これらの成果に基づき包蔵地の範囲も確定した。しかし令和 3 年度に、宝殿塚遺跡北側の農地がほ場整備範囲に追加されたとして、その農地のみを対象に試掘調査を実施し、ほ場整備に伴う試掘調査は完了した。

試掘調査については、農林土木課の協力の下、ほ場整備委員会との協議を行い、必要に応じて地元地権者、耕作者との直接協議を行った上で具体的な時期や場所等を決定した。

なお、令和 2 年度に農林土木課から、試掘を実施した範囲のうち、一般国道 11 号より南側の「山ノ端遺跡」、原八幡神社周辺の「八幡原遺跡（薬師廃寺）」付近が、ほ場整備の対象地から外れたと連絡があった。

第 2 節 調査の経過

1 試掘調査の経過

平成 28 年度 調査日：平成 28 年 4 月 25～27 日、6 月 13～15 日、11 月 28 日～12 月 6 日、平成 29 年 1 月 12 日、2 月 24 日

調査に先立ち、調査区設定場所の案を農林土木課へ提出し、4 月 11 日に地元関係者及び行政関係者で現地状況を確認しながら調査区設定場所を決定した。当初は 70 か所の試掘調査を実施



写真 1 調査風景

する予定であったが、集水地など調査ができない箇所が 5 か所あり、最終的に 65 か所の調査を実施した。

調査の結果、調査対象地には、西に向かって緩やかに下る東西方向の谷地形が走り、その谷を挟んだ北と南に遺跡の広がりを確認した。出土遺物は少なかったが、中世を中心とする遺跡であることが明かとなった。

なお、6 月 8 日には 4 月 25～27 日にかけて行った調査について、地元ほ場整備委員会に報告した。

平成 30 年度 調査日：平成 30 年 5 月 10・11・14 日

当年度は新たに 19 か所の調査を実施する予定であったが、うち 3 か所は作付けの関係で調査ができず、他 4 か所は周辺の調査成果から調査を実施しなかった。計 12 か所の調査を行った。

試掘調査の結果、一般国道 11 号を挟んだ南側にも遺跡の広がりが確認できた（山ノ端遺跡）。一般国道建設時に遺跡が見つかっていないことからすれば、平成 28 年度調査地に存在する谷を挟んだ南側の遺跡（亀の甲Ⅱ遺跡）とは別の遺跡となる可能性を考えた。

平成 31 年度 調査日：平成 31 年 4 月 17～19 日

当年度は、平成 30 年度に作付けの関係で調査ができなかった 3 か所（うち 1 か所中止）と原八幡神社付近に 13 か所（うち 2 か所中止）の追加調査を実施した。原八幡神社付近には包蔵地「原八幡神社裏遺跡」、「薬師廃寺」が存在する。両遺跡周辺では、古代の瓦等が表採され、古代寺院として評価されてきた。

試掘の結果、「原八幡神社裏遺跡」、「薬師廃寺」周辺でも遺跡の広がりを確認することができ、両遺跡も同一の遺跡と評価すべきと判断した。

令和3年度 調査日：令和4年3月7日

宝殿塚遺跡北側で1か所の調査を行った。調査の結果、平成28年度の調査でも明らかになった、東西方向の谷の中と同じような堆積を確認した。

当該年度をもって、ほ場整備予定範囲の試掘調査は終了した。

2 整理作業の経過

試掘調査で出土した遺物の洗浄・注記・台帳作成作業は、調査年度ごとに実施した。本格的に作業に入ったのは令和2年度である。まずは原因者である農林土木課に提出した試掘調査報告書をもとに、土層関係を再度整理した。その後、遺物をすべて通覧し、土層・遺構の年代観の確認を行った。その上で実測遺物の選定も実施し、当該年度中に遺物実測、写真撮影が終了した。令和3年度には、土層断面図のトレースデータの整理や実測遺物のデジタルトレースを実施し、令和4年度には本報告作成のため、調査成果の検討を行った。

原八幡神社付近で表採された資料について

江戸時代末期に小松藩から命じられて近藤範序が編纂した『小松邑志』の八幡宮の項目には、「原ノ八幡宮と称ス。…布目ノ古瓦多シ」と記されており、古くから瓦が表採されるようであった（近藤 1860）。昭和51・52年に地元の飯岡文化財愛護会等によって瓦が表採され（明比 1992）、その資料は、飯岡公民館に保管されている。その他に所蔵の経緯は不明であるが、西条郷土博物館には「亀ノ甲」と注記された瓦が保管され、これらの資料の一部は、すでに公表されている（長井 1986、山内 1987）。原八幡神社付近で行った試掘調査では出土遺物が少なかったため、遺跡の評価をする上での参考とするために、令和2年6月17日に飯岡公民館、令和2年7月8日に西条郷土博物館所蔵資料をそれぞれ借用し、軒丸・軒平瓦を含むすべての瓦と土器を通覧し、できる限り資料化を行った。

3 周知の埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて

試掘調査に着手した当初は、「亀の甲遺跡」として包蔵地の登録がなされていた。しかし調査結果によって、包蔵地範囲の変更や新規の遺跡発見があったことから、令和元年10月30日に周知の埋蔵文化財包蔵地の取り扱い（新規追加および遺跡範囲等の変更）について愛媛県教育委員会に協議資料を提出し、令和元年11月22日に了承をうけた。その結果、「(旧)亀の甲遺跡」南側に位置する東西方向の谷を挟んで北側を「亀の甲Ⅰ遺跡」、南側を「亀の甲Ⅱ遺跡」、「(旧)宝殿塚」を「宝殿塚遺跡」、新規に「大橋遺跡」、一般国道11号を挟んだ南側を「山ノ端遺跡」とし、「(旧)原八幡神社裏遺跡」、「(旧)薬師廃寺」を統合し「八幡原遺跡(薬師廃寺)」とした。

また、本報告作成のため、再整理を実施した際に「亀の甲Ⅰ遺跡」で遺跡の広がる土層の堆積が確認できたため、令和2年6月12日に再度遺跡範囲変更の協議資料を提出し、令和2年6月23日に了承を受けた。

第3節 調査の体制

試掘調査及び報告書作成の調査体制は表1のとおりである。

表1 調査体制一覧

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
教育長	菊池 篤志 (~11月) 柳瀬 康治 (1月~)	柳瀬 康治	柳瀬 康治	柳瀬 康治 (~1月) 伊藤 隆志 (1月~)	伊藤 隆志	伊藤 隆志	伊藤 隆志
管理部長 (令和4年度 から事務局長)	山下 建樹	高橋 俊博	高橋 俊博	高橋 俊博	三好 昭彦	三好 昭彦	三好 昭彦
副部長 (令和4年度 から副局長)	三好 昭彦	三好 昭彦	三好 昭彦	三好 昭彦	高橋 壯典	前谷 浩教	串部 佳隆
社会教育 課長					安倍 和紀		前谷 浩教
主幹				岩崎 晃彦	岩崎 晃彦		
副課長		岩崎 晃彦	岩崎 晃彦	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭
専門員	岩崎 晃彦	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭				
歴史文化振興 係長		岩崎 晃彦		伊藤 敏昭	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭	伊藤 敏昭
歴史文化振興 担当係長							渡邊 芳貴
係員	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也 三浦 執 (臨時)	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也 三浦 執 (臨時)	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	渡邊 芳貴 鈴木 圭 岡島 俊也	鈴木 圭 岡島 俊也

なお、試掘調査から報告書作成までの作業は、下記の作業員・会計年度任用職員の参加を得た。
(敬称略)

安部 利子、伊東 信光、岩本 道明、越智 啓三、越智 麻由、越智 むつ子、近藤 宗記、武田 忠義、
竹本 優子、玉井 力、利根 千代美、日野 公文、藤井 洋子、藤田 正一、藤田 淑子、槇 重信

《参考文献》

- 明比 学 1992 「原八幡神社について」『西條史談』第27号、西條史談会
 近藤範序 1860 『小松邑志』(伊予史談会編 1981 『今治夜話 小松邑志』伊予史談会双書第2集に所収)
 長井教秋 1986 「薬師廃寺」『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会
 山内隆夫 1987 「新居郡薬師廃寺の古瓦」『伊豫史談』264号、伊豫史談会

第2章 調査地の位置と環境

第1節 地理的環境

西条市は、愛媛県東部（東予地方）に位置し、新居浜市、今治市、東温市、久万高原町、高知県のいにしえに接する。

市域の北東側は瀬戸内海（燧灘）に面し、南側には西日本最高峰である石鎚山（標高 1982 m）や瓶ヶ森（標高 1897 m）、笹ヶ峰（標高 1860 m）の連なる石鎚山脈、西側には東三方ヶ森（標高 1233 m）、明神ヶ森（標高 1217 m）からなる高縄山地が存在する。石鎚山脈は、中央構造線と平行に走る大起伏の壮年山地であり、傾斜が険しい大断層崖とその山地の地滑りによって形成された緩斜面を特徴とする。中央構造線内より北方の内帯側は和泉砂岩、南方の外帯側は結晶片岩で構成されている。一方高縄山地は、高縄半島の基部を成し、主に花崗岩で構成されている。

こうした山地から流れる加茂川及びその支流によって形成された西条平野と中山川、大明神川及びその支流によって形成された周桑平野は、成り立ちが違うものの2つを合わせて道前平野と呼ばれ、道後平野に次いで県内第2位の面積を持つ。

本書掲載遺跡は、下島山山地と綱付山山地間に挟まれた中位砂礫台地（飯岡台地）上に展開する。飯岡台地は、東側が渦井川、西側が室川の低地に接する。台地全体の標高は、東側が高く、西側にかけて緩く傾斜する。

遺跡の北側に存在する丘陵は、地元では北山（通称）と呼ばれている。この北山と遺跡の間には、JR 予讃線が遺跡の存在する周辺の地表面から約数m下を走っており、丘陵と台地が分断されたようになっている。大日本帝国陸地測量部が発行した明治41年の地図（図3）をみると、原八



図2 西条市位置図



大日本帝国陸地測量部 1:50000 地形図
「西條町」を基に作成

図3 明治41年の亀の甲地区周辺の地形

幡神社の北側に、東から西に向かって緩やかに下る等高線の変化が読み取れる。これは、試掘調査地周辺の東西方向に走る谷地形につながるものとみられる。また、包蔵地北側の JR 予讃線が通っている箇所では、大きな地形の変化が確認できないため、元々は北山と連続していたものと考えられる。

第2節 歴史的環境

旧石器時代 下島山山地に所在する西福寺裏山遺跡（13）でサヌカイト製のナイフ形石器が採集されている。図示している範囲では、本遺跡で確認されているにすぎないが、下島山山地から派生する丘陵上に同時代の石器が出土する可能性が示唆されている。

縄文時代 早期では、天神山遺跡（15）や半田山遺跡（22）、真導寺遺跡（30）で土器が出土している。中期は、内容のわかる遺跡は確認されていない。後期～晩期にかけて、池の内遺跡（8）や半田山遺跡、天神山遺跡、新居浜市の太師泉遺跡（34、新居浜市史跡）で、晩期では八堂山遺跡（26、市史跡）で土器の出土が確認されている。

















弥生時代 天神山遺跡や地蔵原遺跡（25）で前期～中期初頭頃の土器が出土している。中期では、池の内遺跡で遺構・遺物が確認されている。中期～後期にかけて遺跡数も増加し、牛の角遺跡（9）、天神山遺跡、八堂山遺跡、真導寺遺跡、新堂遺跡（29）、新居浜市の大師泉遺跡で遺構・遺物が確認されている。

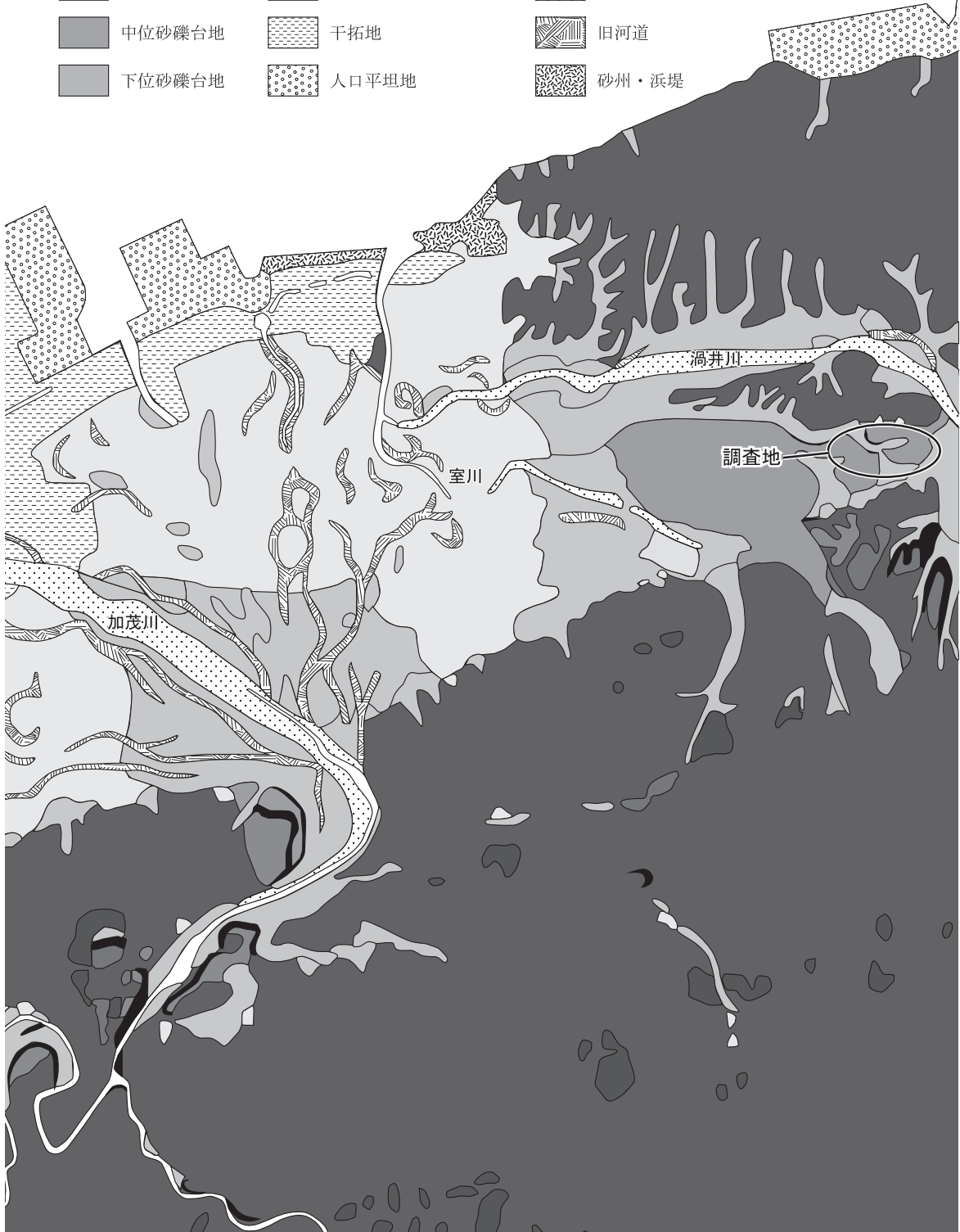
天神山遺跡では、古墳の周溝に切られた土壇墓が検出されている。また大師泉遺跡では、平形銅剣が出土している。

古墳時代 当該期の墳墓は、前期では、天神山遺跡1号古墳が推定されているに過ぎず具体的な様相は定かでない。中期は確認されていない。後期には、諏訪山丘陵上に諏訪山1号墳（17-1、市史跡）・同2号墳（17-2）や室山塚穴古墳（16）が、天神山遺跡2号古墳や天神山遺跡箱式石棺、飯岡台地上に同じく後期古墳と考えられている半田山古墳（21）や半田古墳（19）岡古墳（岡遺跡、18）が築造される。

集落跡は、現在のところよくわかっていないが、半田山遺跡で後期の竪穴建物が検出されている。

古代 池の内遺跡は2次にわたる調査が実施され、8世紀代の掘立柱建物や竪穴建物、区画溝が検出されている。円面硯の出土や掘立柱建物の床面積の大きさ、区画溝の存在等から、官衙関連遺跡の可能性が示唆された。地蔵原遺跡では、8世紀代の土器が出土し、新居浜市の喜来遺跡（31）では8世紀を中心とする時期の集落が確認されている。

- | | | | |
|--|---|---|---|
|  急斜面 |  扇状地 |  海・河川 |  崖 |
|  山麓緩斜面 |  谷底平野・
氾濫原及び複合谷低地 |  崖錘 | |
|  上位砂礫台地 |  三角洲 |  河原 | |
|  中位砂礫台地 |  干拓地 |  旧河道 | |
|  下位砂礫台地 |  人口平坦地 |  砂州・浜堤 | |



国土地理院 1:150000 土地分類基本調査(地形分類図)「西条」を基に作成

図4 地形分類図



- | | | | |
|------|-----------|-------|-------|
| 西条市域 | | 新居浜市域 | |
| 1 | 亀の甲 I 遺跡 | 20 | 野津子城 |
| 2 | 亀の甲 II 遺跡 | 23 | 早川城 |
| 3 | 大橋遺跡 | 31 | 喜来遺跡 |
| 4 | 宝殿塚遺跡 | 32 | 高橋館 |
| 5 | 山ノ端遺跡 | 33 | 正法寺遺跡 |
| 6 | 八幡原遺跡 | 34 | 大師泉遺跡 |
| 7 | 飯岡北遺跡 | 35 | 小河城 |
| 8 | 池の内遺跡 | 36 | 高尾城 |
| 9 | 牛の角遺跡 | | |
| 10 | 中山城 | | |
| 11 | 上野彦寺 | | |
| 12 | 笹山城 | | |
| 13 | 西福寺裏山遺跡 | | |
| 14 | 天神山城 | | |
| 15 | 天神山遺跡 | | |
| 16 | 壱山塚古墳 | | |
| 17-1 | 諏訪山 1号墳 | | |
| 17-2 | 諏訪山 2号墳 | | |
| 18 | 岡遺跡 | | |
| 19 | 半田古墳 | | |
| 20 | 野津子城 | | |
| 21 | 半田山古墳 | | |
| 22 | 半田山遺跡 | | |
| 23 | 早川城 | | |
| 24 | 大浜城 | | |
| 25 | 地藏原遺跡 | | |
| 26 | 八堂山遺跡 | | |
| 27 | 西家藩陣屋跡 | | |
| 28 | 土居構跡 | | |
| 29 | 新堂遺跡 | | |
| 30 | 真導寺遺跡 | | |

国土地理院 1:50000 地形図「西条」、「新居浜」を基に作成

図5 主要遺跡分布図

池の内遺跡や天神山遺跡、八堂山遺跡では平安時代の遺構・遺物が確認されている。池の内遺跡では、土坑墓が検出されている。八堂山遺跡では、土器が直線状にほぼ等間隔でおかれ、数十枚重なって出土した箇所もあることから、石鎚信仰の場であったと推察されている。

寺院では、新居浜市域で県内で唯一泥塔の出土が確認された正法寺遺跡（33）のほか、室川右岸の上野廃寺（11）、伊曾乃台地の真導寺遺跡がある。真導寺遺跡（真導廃寺）では、基壇状遺構や掘立柱建物が検出され、八幡原遺跡（薬師廃寺）と同範の軒丸瓦が出土しているほか、奈良二彩や赤色塗彩土師器等が出土している。

生産遺跡は、亀の甲Ⅰ遺跡北方の丘陵上に7世紀前半～中頃の須恵器の窯跡（飯岡北遺跡、7）が存在する。また、詳細は不明であるが、八幡原遺跡（薬師廃寺）に供給したと考えられる瓦窯跡（亀の甲窯跡）も北山に存在するといわれている。

当地周辺は、下島山山地と綱付山山地に挟まれた狭隘な場所に位置し、「東大道」、「西大道」の字名が残されている。周辺の地形や地名から、古代官道である南海道が当地付近を通っていた可能性が指摘され、その場所は、現在の旧道である、讃岐街道が推定されている。

中世 池の内遺跡、天神山遺跡、八堂山遺跡で中世の遺構・遺物が確認されているものの、集落の様相がわかる調査事例はない。

建保6年（1218）に「西條庄」の名がみえ、庄内に徳重・得恒・福武・稻満・末久・菊一・鶴久の7か村のほか、判読できない1か村を含む計8か村が存在したとされる。この西條庄の領主は河野氏であり、西条市洲之内に所在する高峠城の城主であった。高峠城は、山下に東の館、西の館と呼ばれる居館があったと伝えられ、東の館は現在の土居構跡（県史跡、28）である。新居浜市域や西条市域にもこの時期の城館が多数存在する。

真導寺遺跡では、鎌倉時代末以降の経塚が調査され、注口付鉄鍋や貨幣（治平元宝）が出土した。

近世 江戸時代の愛媛県には八藩が存在し、西条市には小松藩・西条藩が置かれた。西条市飯岡亀の甲地区は、小松藩領に含まれ、藩主は一柳家が務めた。西条藩は河野氏の末裔が一柳姓を称したことから始まるとされ、1665年に改易され、1670年に松平家が藩主を務めることになる。小松藩と西条藩の陣屋跡はいずれも市史跡に指定されている。西条藩陣屋跡（27）は、県立西条高等学校の敷地となっており、体育館改築工事に伴う調査が実施されている。調査では、18世紀末～19世紀中頃までの整地層や遺物が確認されている。

近現代 明治2年に小松藩・西条藩が版籍奉還し、約200年続いた藩政時代が終了した。明治4年には、それぞれ小松県・西条県となり、その後、両県は松山県に統合され、さらに石鎚県と改称された。明治6年に、石鎚県と神山県が合併し愛媛県となった。明治22年に施行された市政・町村制によって新居郡が細分され、飯岡村が成立した。昭和16年に飯岡村を含む5町村が合併し、西条市となった。その後、平成16年に西条市・東予市・小松町・丹原町が合併し、現在の西条市が誕生した。

第3節 既往の調査

亀の甲 I 遺跡 令和元年の包蔵地範囲の変更まで、「亀の甲遺跡」として周知されてきた。これまで発掘調査を行った事例はない。遺跡として認知されるようになったのは、昭和 62 年に起こった台風による災害の復旧現場で土器が発見されたことによる。出土した土器には、土師器や白磁、青花があり、当時ではあまり調査の進んでいない中世の遺跡として周知されることとなった。

八幡原遺跡（薬師廃寺） 令和元年の包蔵地範囲の変更まで、「原八幡神社裏遺跡」、「薬師廃寺」として周知されてきた。昭和 62 年に一般国道 11 号西条バイパス建設工事に先立ち愛媛県埋蔵文化財調査センターが「原八幡神社裏遺跡」の発掘調査を実施した。調査の結果、薬師廃寺に関わると考えられる遺構は検出されなかったものの、土坑・溝を検出し、7 世紀後半～8 世紀前半頃の須恵器が出土した。

《参考文献》

- 石貫弘泰編 2014『西条藩陣屋跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第 185 集、(公財)愛媛県埋蔵文化財センター
- 犬飼徹夫 1986「大師泉遺跡」『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会
- 愛媛県教育委員会編 1991『愛媛県内古墳一分布調査報告書一』
- 愛媛考古学研究所編 1993『天神山遺跡』西条市教育委員会
- 金田章裕ほか編 2009『地図で見る西日本の古代 律令制化の陸海交通・条理・史跡』日本大学文理学部叢書
- 西条市教育委員会 1988『新堂遺跡発掘調査報告書』
- 西条市教育委員会 2013『西条市の文化財』
- 十亀幸雄 2015「西条市尻川上野廃寺の古瓦」『遺跡』第 49 号、遺跡発行会
- 多田 仁編 2009『池の内遺跡 2 次調査』埋蔵文化財発掘調査報告書第 151 集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 土井光一郎編 2012『本郷遺跡 2 次 喜来遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第 173 集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 長井数秋編 1972『八堂山』西条市教育委員会
- 長井数秋編 1977『伊豫国真導廃寺跡発掘調査報告書』愛媛県教委育委員会
- 長井数秋 1987「西条市下島山遺跡出土のナイフ形石器」『ふたな』3 号、伊予考古学会
- 新居浜市 2021『新居浜市の歴史』
- 西川真美ほか編 1994『四国縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 Vー西条市編一 横山城跡 船形遺跡 地蔵原遺跡 尾土居窯跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第 44 集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 西田 栄 1986「宇摩・新居浜平野の青銅器出土遺跡」『愛媛県史 資料編 考古』愛媛県史編さん委員会
- 米澤俊二編 1989『一般国道 11 号西条市バイパス埋蔵文化財調査報告書 池の内遺跡 牛の角遺跡 天神山遺跡 原八幡神社裏遺跡』埋蔵文化財発掘調査報告書第 32 集、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

第3章 調査成果

第1節 調査の方法

調査区は、遺跡の存否を確認するために地形に応じて柔軟に設定し、調査を行うことが望ましかったが、対象地の大半は現在も水田や畑として利用されているため、調査後の営農に支障をきたすことのないように調査区の方角や規模、掘削深度等には様々な条件があった。特に調査区の埋め戻し後に農耕車両が落ち込むことが懸念されたことから、調査区は基本的に農耕車両が進む方向に直交して長軸をとることとし、その規模も1×2mと小規模なものとなった。調査区の設定場所は農林土木課をはじめ、地元は場整備委員会及び地元関係者と協議を行い確定させたが、周辺の調査結果から遺跡が広がらないと事前に判断した調査区については調査を行わなかった。

各調査区の調査は、バックホウ及び人力で掘削を行い、層の変化に応じて平面・断面を精査し、遺構の有無を確認するとともに遺物の取上げを行った。調査の記録は、土層断面の実測及び写真撮影とともに、必要に応じて平面図を縮尺20分の1で作成した。なお、試掘調査の段階では現地に基準点・水準点が落とされていなかったことから、基本的に現地表面の高さを0mとした。調査区の設定場所については、それぞれの周辺の目印を基準にエスロン巻き尺で距離を計測し、都市計画図に記録した。

なお、調査終了後は、調査区を埋め戻して原状に復した。耕作土より下の土については、必要に応じてランマで転圧を図りながら埋め戻しを行った。



写真2 調査区設置状況



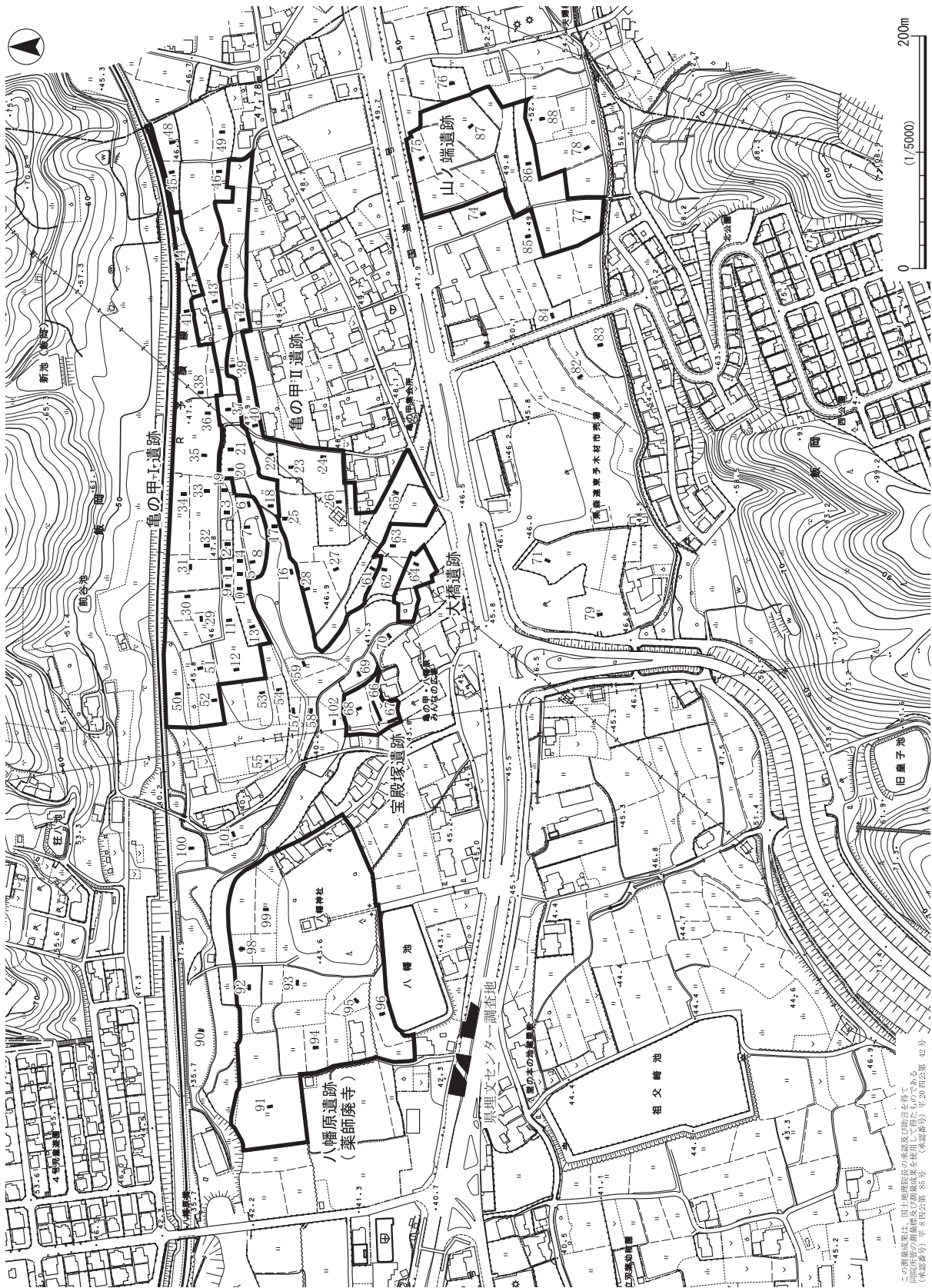
写真3 重機による掘削状況



写真4 測量風景



写真5 埋め戻し（ランマによる転圧）状況



この測量成果は、国土院院社の承認及び助言を得て、同院評定の測量成果及び測量成果を使用して得たものである。
 (承認番号) 平 京 昭 公 第 58 号 (承認番号) 平 20 四 公 第 42 号

西条市都市計画図に一部加筆

図6 調査区位置図

第2節 亀の甲 I 遺跡

1 基本層序（図8～10、写真図版1～4）

耕作土、床土下で客土層、旧耕作土層、包含層、地山を確認した。

客土層は、10tr 4・5層、11tr 3～5層、19tr 3層、31tr 2層、33tr 3層であり、層厚約14～40 cmを測る。

旧耕作土層は、11tr 6層、38tr 3・4層であり、層厚約14 cmを測る。

包含層は、11tr 7層、13・50tr 4層、30・32・34・41tr 3層、38tr 5・6層、51tr 4・5層である。色調は各調査区において微妙な差があるものの、概ね褐色系をなす。出土遺物は、30tr 4層で14世紀前後とみられる土師器坏や鍋が、38tr 5層で土師器鍋もしくは釜や瓦質土器羽釜が出土したのみであった。38tr 5層と6層は包含層としたが、やや色調の差がみられる。調査範囲が限定されているため、断定はできないが、包含層が2枚存在する可能性がある。また、6層が7層を掘り込んでいるようにみえるため、遺構埋土の可能性も考えられる。6層が包含層であるとするれば、6層上面で遺構を検出しているため、部分的に遺構確認面が2面になる可能性も残る。出土遺物から、包含層は14世紀頃には堆積したと考えられる。

地山は、調査地点によって異なり、大きくシルト質の層と大礫を非常に多く含む層とに分かれる。その上面で柱穴や土坑を検出した。

なお、6～8tr は、耕作土、床土下で旧耕作土、旧床土、客土を確認し、その下層は水分を多く含むシルト～粘土が確認できた。遺物の出土もみられず、他の調査区と堆積層を異にすることから遺跡が広がらないと判断した。

2 遺構

今回の試掘調査では、柱穴15基、土坑1基を検出した。

柱穴の平面形状は円形が多い。円形の柱穴は径約15～28 cm、不整形は最大幅37 cmを測る。深さは、掘り下げたもので約20 cm以上を測る。

3 出土遺物（図11、写真図版4）

本遺跡の調査では、土器・陶磁器が出土した。

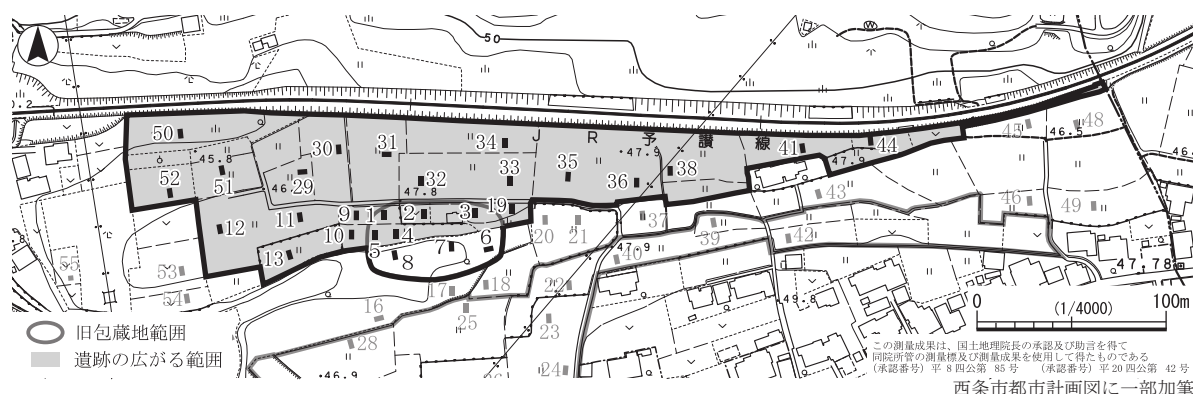


図7 亀の甲 I 遺跡調査区位置図

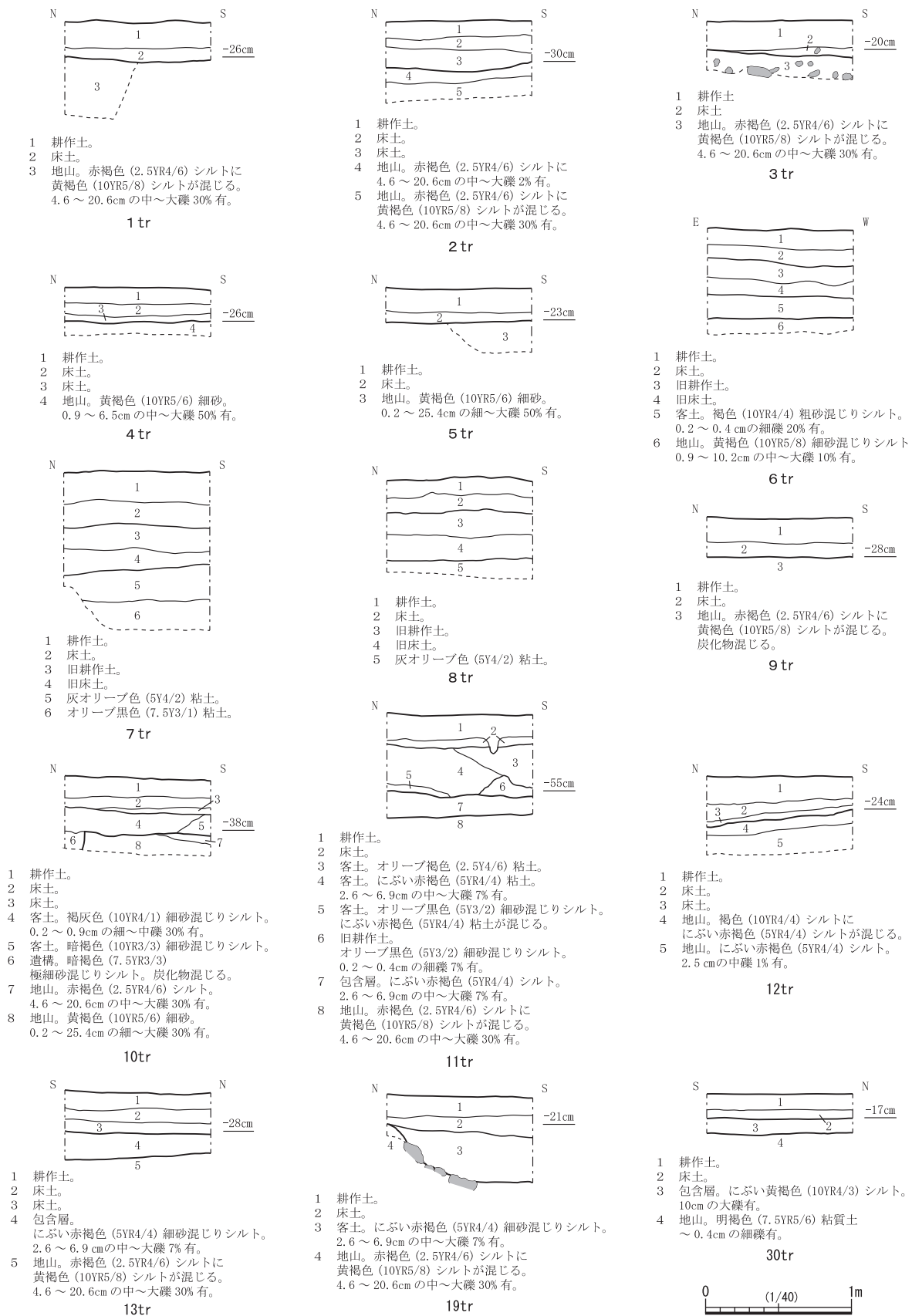


図8 亀の甲 I 遺跡 平・断面図①

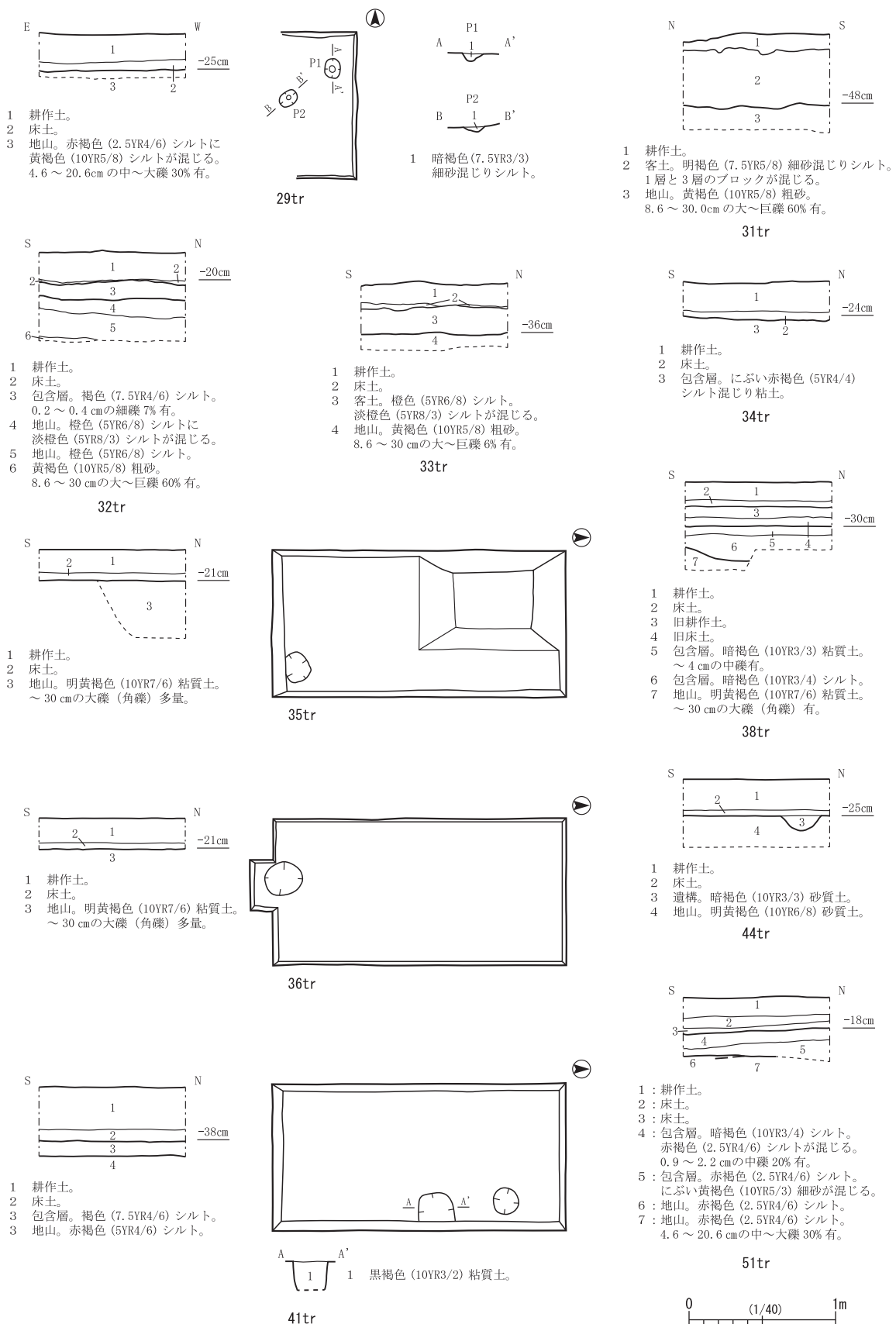


図9 亀の甲 I 遺跡 平・断面図②

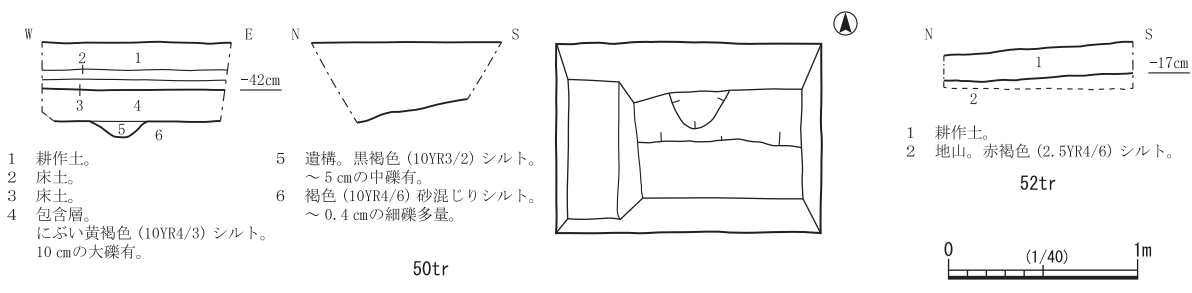


図10 亀の甲 I 遺跡 平・断面図③

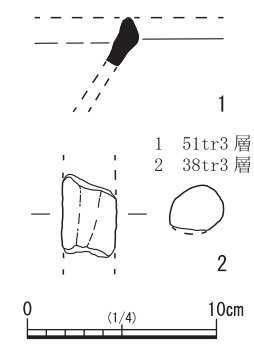


図11 亀の甲 I 遺跡 出土遺物

1は須恵器鉢である。形態的特徴から東播磨産と考えられる。2は土師器鍋もしくは釜である。1は13世紀前後、2は14~16世紀頃とみておきたい。

4 小結

今回の調査では、包蔵地外にも遺跡が広がることが確認できた。検出遺構や出土遺物の量が少なく、遺跡の年代の推定について判断材料に乏しい。しかし、試掘調査で出土したわずかな資料や昭和60年代の台風による土砂崩れにより、中世の土師器釜や白磁、青花が出土したとされることから、中世を中心とする遺跡と理解しておきたい。

第3節 亀の甲 II 遺跡

1 基本層序 (図13、写真図版5・6)

耕作土・床土層下で、客土層、旧耕作土層、包含層、地山を確認した。客土層は、27tr 4~7層、28tr 2・3層、61tr 3層であり、層厚16~42cmを測る。旧耕作土層は39tr 3層である。層厚10cmを測る。

包含層は23・24・40tr 3層、39tr 4~6層、65tr 4層である。24tr 3層から土師器釜が出土したが、その他の層から遺物は出土しなかった。しかし、色調がやや黒い褐色で、共通している

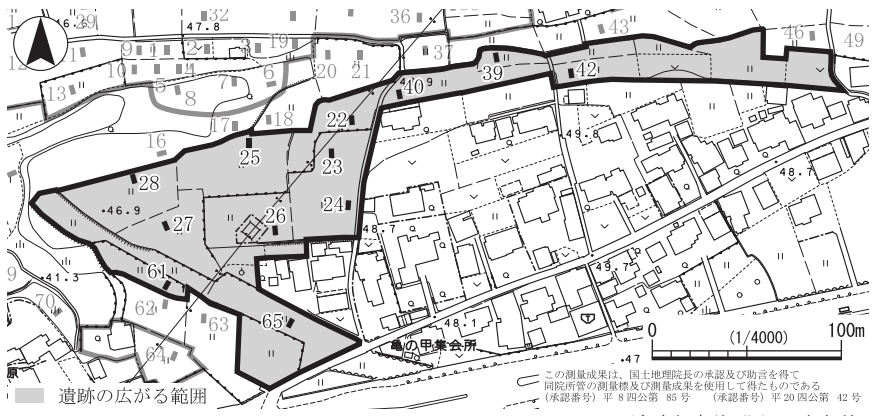


図12 亀の甲 II 遺跡調査区位置図

ため、包含層と認識した。層厚2~38cmを測る。なお、27tr 8層は、色調から包含層の可能性も考えられるが、9層を掘り込んでいるようにもみえるため、遺構の可能性も残る。23・24tr 3層から近代以降の遺物が出土したが、上層であ

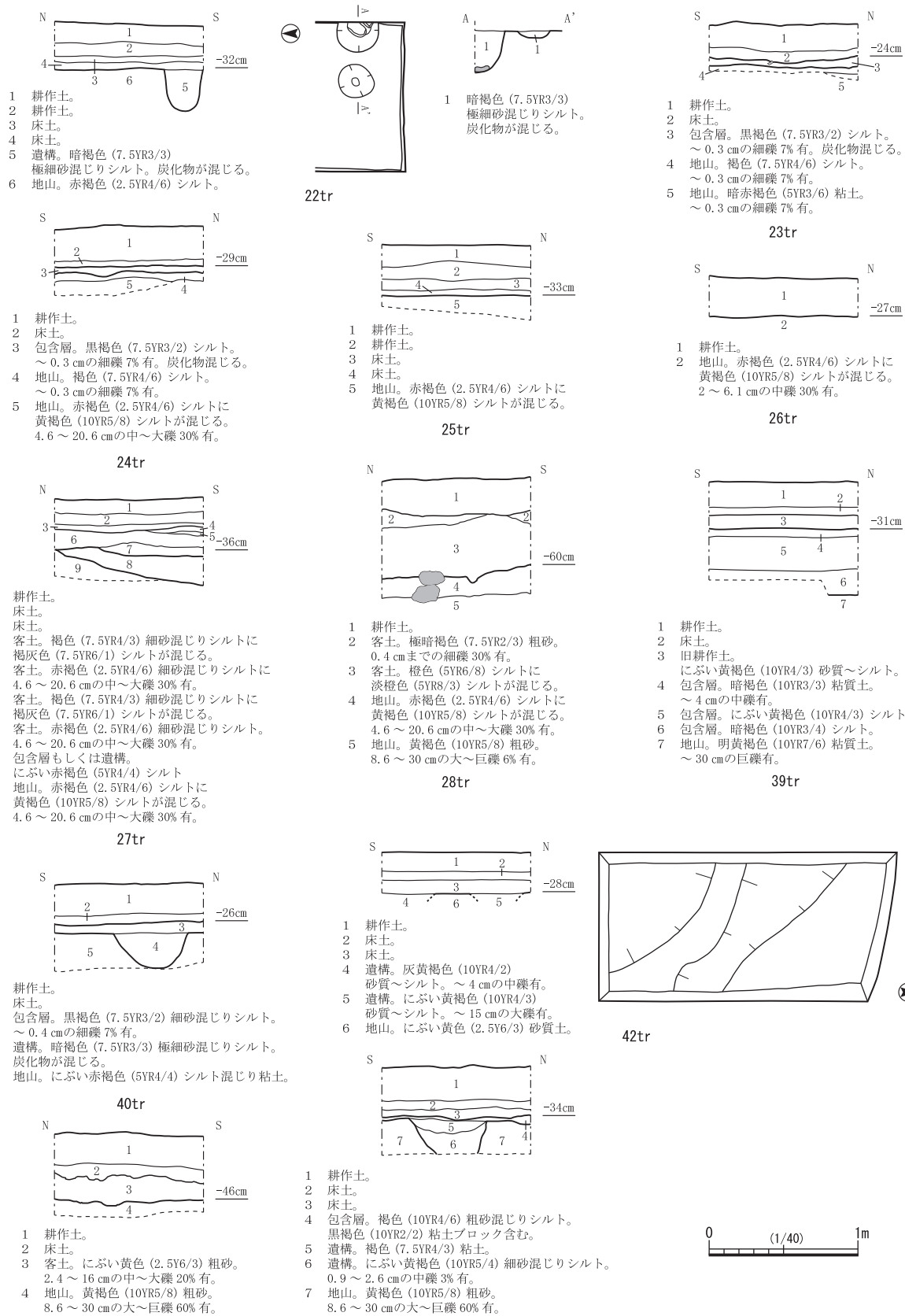


図 13 龜の甲II遺跡 平・断面図

る1・2層から同時代の遺物が出土していることから、3層掘削時の遺物の取り上げ段階で混入したと考えている。39tr 4～6層は色調の差から、包含層が3層存在する可能性があるものの、遺構埋土の可能性も否定できない。

地山は、シルトを主体とし、礫が多量に含まれる。地山上面で遺構を検出した。

2 遺構

今回の調査で、柱穴5基、溝2条、土坑2基を検出した。

22・40tr で検出した柱穴は、径20～30cm、深さは最大で30cmを測る。22tr 東端の柱穴は、底に上面が水平になるように置かれた石があり、礎板石の可能性もある。

40・42tr で溝を検出した。42tr 溝は、幅25cm、40tr 溝は、幅48cm、深さ20cmを測る。40tr 溝から瓦質土器釜や須恵器甕が出土した。

42・65tr で土坑を検出した、42tr では幅70cm、65tr では幅・長さともに50cm、深さ20cmを測る。

3 出土遺物（図14、写真図版6）

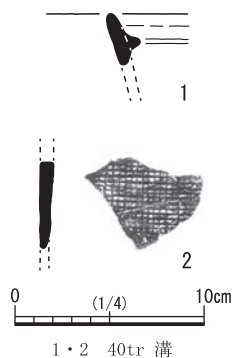


図14 亀の甲Ⅱ遺跡
出土遺物

本遺跡の調査では土器・陶磁器・瓦・鉄釘が出土した。陶磁器・瓦・鉄釘は江戸時代以降のものと思われる。

1は瓦質土器釜である。罫が浅い形状である。2は甕である。瓦質焼成で、外面に格子目状のタタキがあることからすれば、亀山系瓦質土器の可能性もある。いずれも13・14世紀頃と思われる。

4 小結

本遺跡は、これまで発見されていなかった遺跡であり、今回の調査で初めて確認された。遺構確認面までの深さや遺構の検出数、遺物の出土量から、一定程度削平をうけているものと推察される。包含層・遺構出土遺物からすると、中世の遺跡と考えるのが妥当であろう。

第4節 大橋遺跡

1 基本層序（図16、写真図版7）

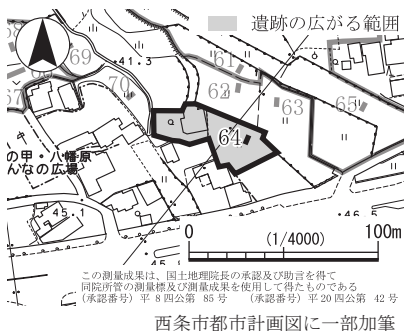


図15 大橋遺跡調査区位置図

現代耕作土直下で地山を確認した。

地山は16cmほどの巨礫を含む。地山上面で遺構を検出した。

2 遺構

土坑を1基検出した。検出長60cm、深さ10cmを測る。遺物は出土せず、時期は不明である。

3 小結

本遺跡では土坑を検出した。遺構を検出したものの、遺物の出土が確認できなかったため、本遺跡の時期は明らかではない。また、ほ場整備予定地の西南端であったため、本遺跡の西南方向への広がり把握できなかった。

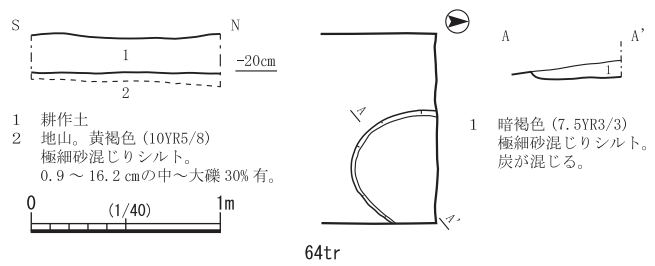


図 16 大橋遺跡 平・断面図

第5節 宝殿塚遺跡

1 基本層序 (図 18、写真図版 7)

耕作土・床土下でにぶい黄褐色粘質土層と地山を確認した。にぶい黄褐色粘質土層 (3層) は 67tr でのみ確認した。江戸時代以降の染付等が出土したにぶい黄色粗砂層 (4層、攪乱) より上部に位置することから、それ以降の客土もしくは堆積層と考えられる。

地山は 30cm 台の大礫が混じり、上面で遺構を検出した。

2 遺構

柱穴 2 基、溝 1 条、土坑 1 基を検出した。

66tr の柱穴は、径 20 ~ 40cm を測り、検出面の遺構埋土の土色はいずれも褐色を呈する。

67tr の溝は、検出長 3 m、検出幅 80 cm、深さ 27 cm を測る。埋土は 2 層に分層でき、上層は褐灰色シルト、下層は灰色砂であった。埋土から瓦当が摩滅した軒丸瓦が出土した。

67tr の土坑は、攪乱によって切られているが、検出長 1.5 m、検出幅 70 cm、深さ 64 cm を測る。

3 出土遺物

写真 6 は、67tr 溝から出土した軒丸瓦である。瓦当は摩滅しており、文様等は不明である。瓦当径は、下部が破損しているため、定かではないが復元径 13.7 cm を測り、やや小型である。外区の縁は、2.1 cm を測る。丸瓦部凸面は、ヘラ状工具によって削られている。瓦当径が小型であるため、中世頃の所産と考えられる。

4 小結

本遺跡では、柱穴、溝、土坑を検出した。これらの遺構はすべてを掘削したわけではないが、部分的に掘削した箇所からも遺物の出土はほぼみられなかった。67tr 溝から中世期とみられる瓦が出土したことから、その時期の遺構が展開する可能性が高い。

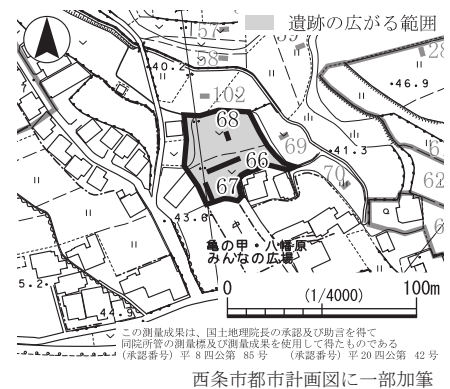


図 17 宝殿塚遺跡調査区位置図

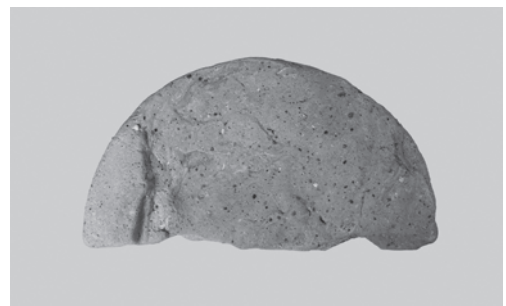


写真 6 宝殿塚遺跡 67tr 溝出土瓦

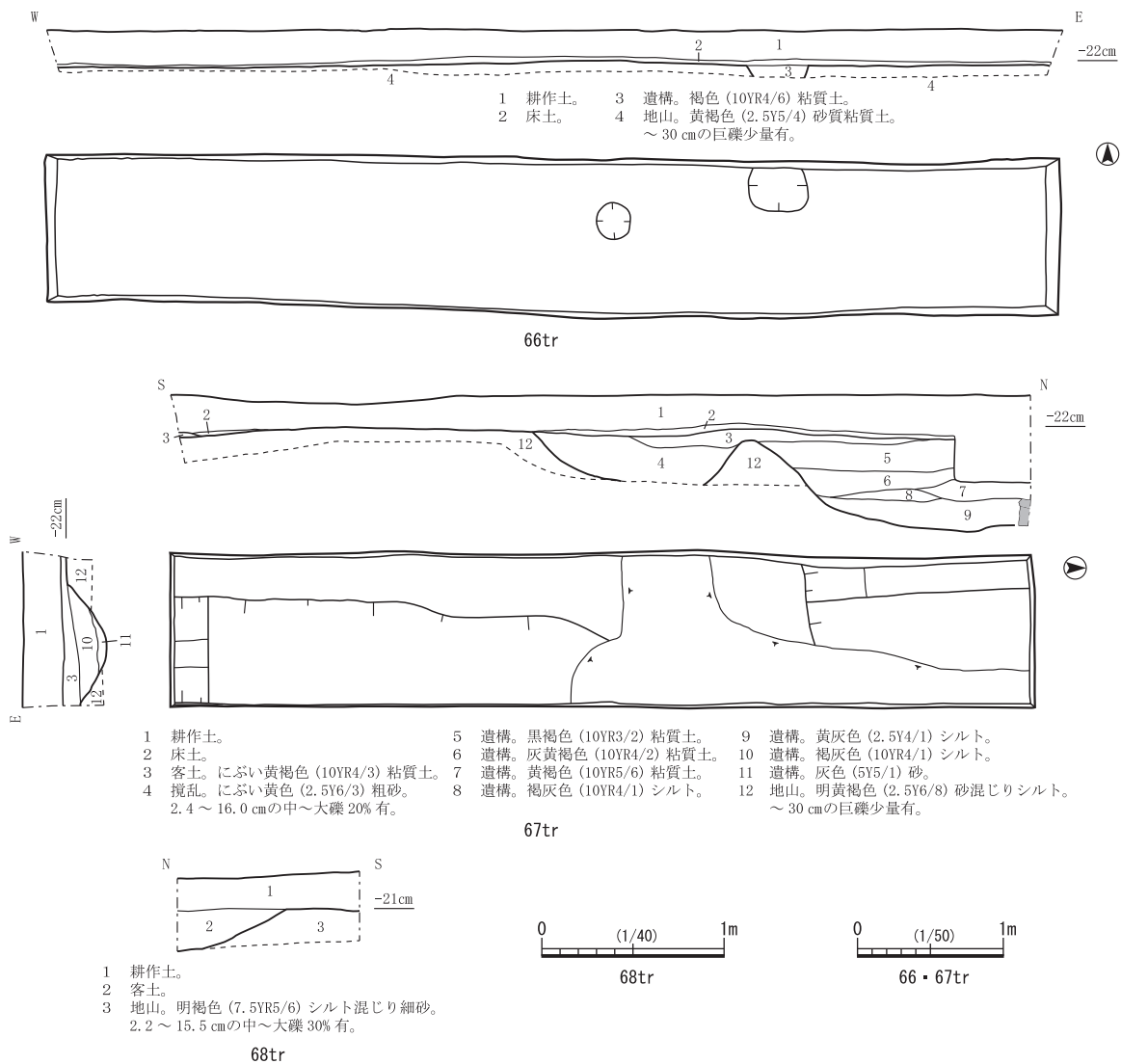


図18 宝殿塚遺跡 平・断面図

第6節 山ノ端遺跡

1 基本層序 (図20、写真図版8)

耕作土・床土層下で客土層、旧耕作土層、包含層を確認した。

客土層は、75・86tr 4層であり、層厚5~30cmを測る。

旧耕作土層は87tr 3層であり、層厚24cmを測る。

包含層は、75・86tr 5層、77tr 3・4層、87tr 4・5層である。色調は各調査区において微妙な差はあるものの、概ね褐色系をなす。層厚18~60cmを測る。77tr 3・4層、87tr 4層からは遺物の出土は確認できなかったものの、86・87tr 5層の包含層と認識した堆積層とよく似ているため包含層とした。75tr 5層から弥生土器とみられる土器片、86・87tr 5層から中世期の土器が出土した。

地山は、黄色~褐色系の色をなし、大礫を多く含む箇所もある。75trでは、地山と考えてい

る7層上面で柱穴を検出した。77tr 5層で少量の湧水がみられるが、その他の調査区では確認できなかった。

2 遺構

75tr で柱穴を1基検出した。検出幅45cm、深さ15cm以上を測る。遺構埋土はオリーブ褐色であった。

3 遺物

包含層から弥生土器とみられる土器片や中世の土器片がわずかに出土したに過ぎず、図化できるものはなかった。

4 小結

本遺跡では、75tr で柱穴を1基検出した。柱穴から遺物が出土しなかったため、所属時期は明らかではない。しかし、柱穴を検出した面より上層に堆積した包含層から弥生土器とみられる破片が出土したことから、その時期前後まで遡る遺構の可能性もある。ただし、土器は摩滅しているため、移動を受けているかもしれない。

86・87tr 5層から中世期の土器が出土していることから、この時期の遺構も展開する可能性がある。

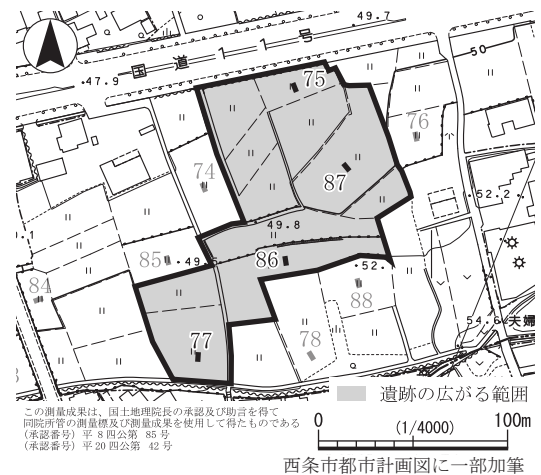


図19 山ノ端遺跡調査区位置図

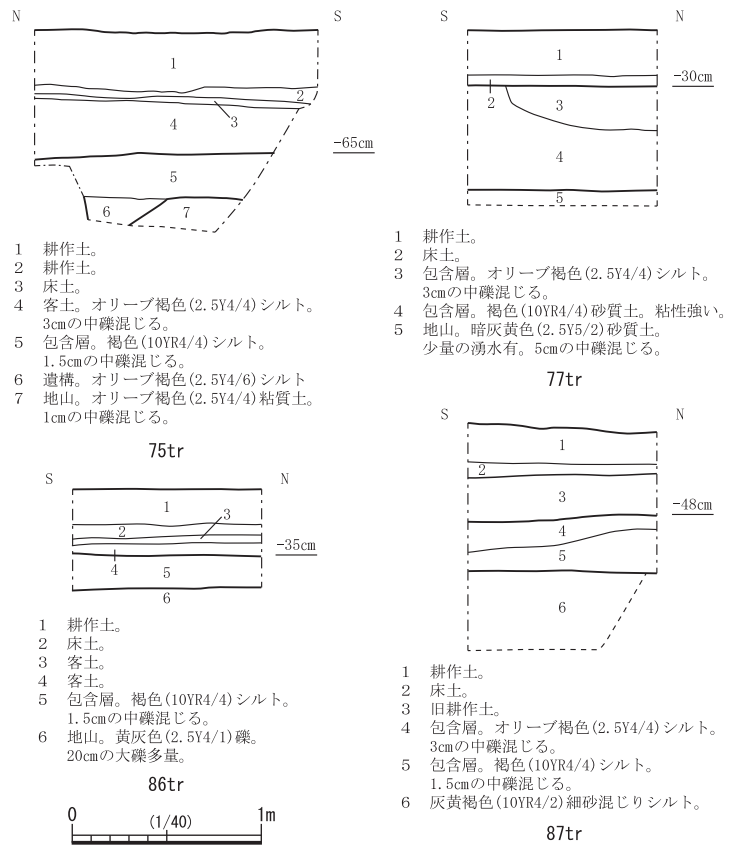


図20 山ノ端遺跡 土層断面図

第7節 八幡原遺跡（薬師廃寺）

1 基本層序（図22、写真図版9・10）

耕作土・床土直下で客土、旧耕作土・旧床土、包含層、地山を確認した。

客土は95tr 3層であり、層厚で14cmを測る。

旧耕作土・旧床土は98tr 3・4層であり、層厚12cmを測る。

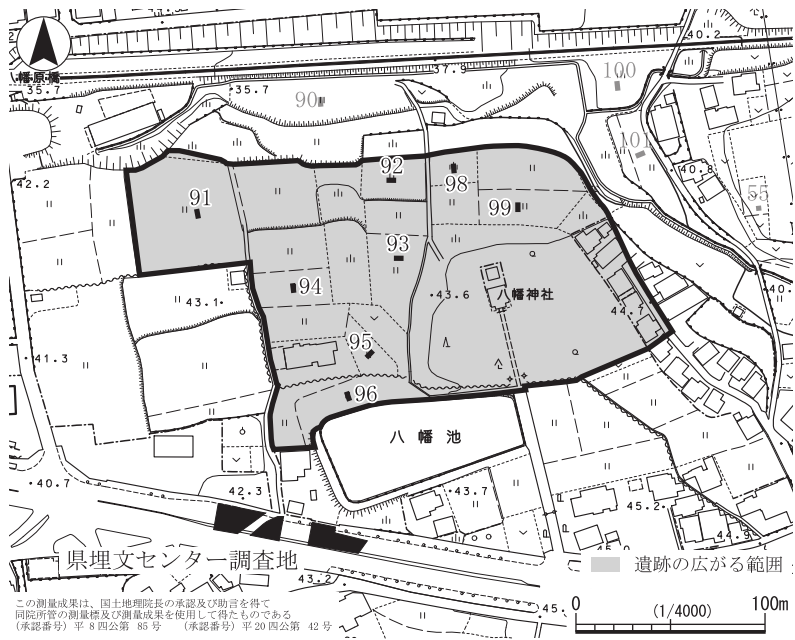


図 21 八幡原遺跡（薬師廃寺）調査区位置図

包含層は 92・94tr 3 層、93・95tr 4 層、98tr 5 層である。色調は褐色～黒褐色をなす。93tr 4 層から 8 世紀中頃～後半頃の須恵器や瓦が、98tr 5 層から土師器煮炊具や瓦が出土した。92・94tr 3 層、93・95tr 4 層からは遺物が出土しなかったが、遺物が出土した包含層と色調が似ていることから、包含層と判断した。

包含層と判断している 94tr 3 層上面で柱穴を検出した。部分的に遺構面が 2 面になる箇所が存在すると考えられる。

地山は、安定した明褐色粗粒

シルトで、上面で柱穴、土坑を検出した。

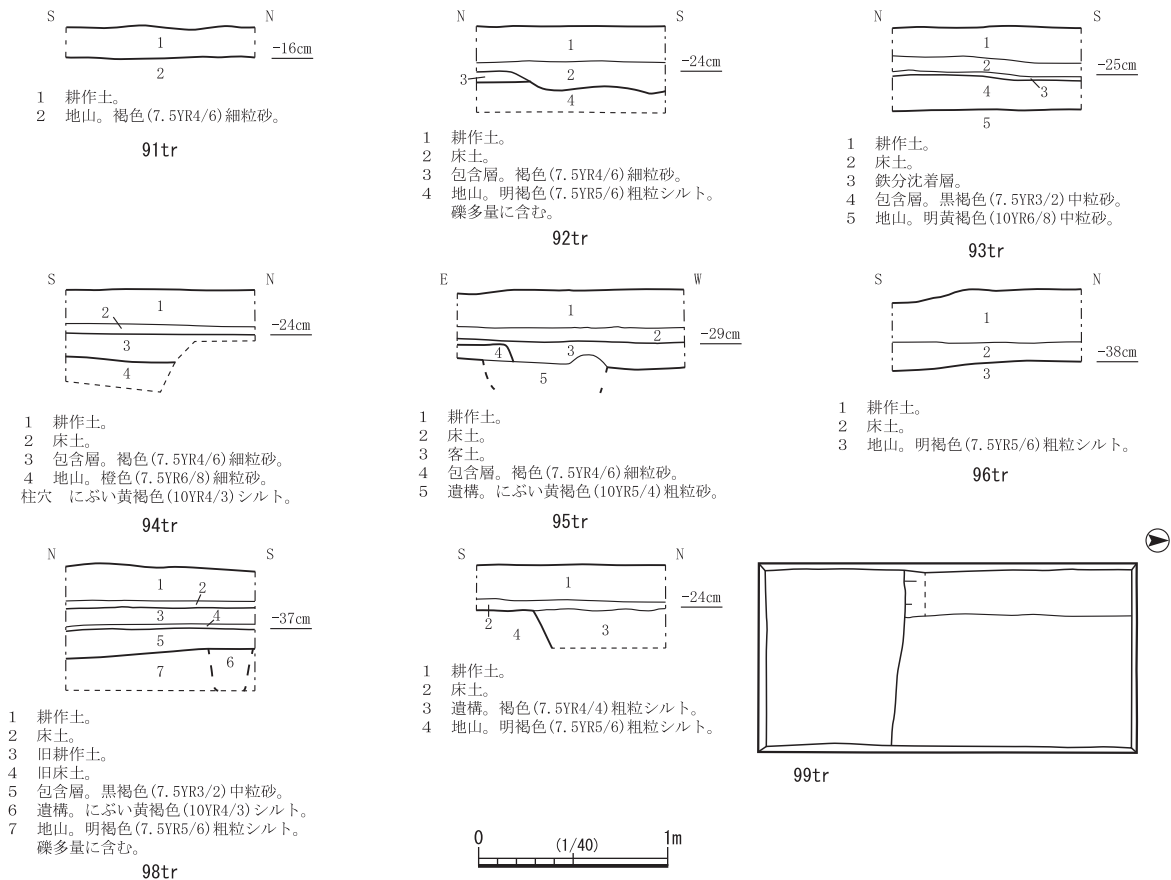


図 22 八幡原遺跡（薬師廃寺）平・断面図

2 遺構

包含層である 94tr 3層上面で柱穴を1基検出した。柱穴は、径 24 cmを測り、埋土はにぶい黄褐色シルトであった。

一方、地山上面では柱穴を5基、土坑を1基検出した。柱穴は径 20 ~ 65 cmを測り、深さは掘り下げたもので 22 cm以上を測る。98tr の柱穴から古代の瓦が出土した（写真7）。

99tr で検出した土坑は、検出長 94 cm、検出幅 1.27 m、深さ 20 cm以上を測る。遺構内から須恵器や瓦が出土した。

3 遺物（図 23・24、写真図版 10）

図化した遺物は、少ない。

図 23 - 1 は須恵器蓋である。天井部にはヘラ切り痕が残る。8世紀前半頃を中心とする時期と考えられる。

図 24 - 1 は丸瓦である。玉縁長は 4.3 cmを測る。凸面の玉縁側は縄目の痕跡がヘラ削りもしくはナデによって消されている。

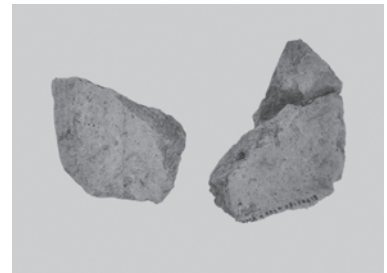


写真7 八幡原遺跡（薬師廃寺）
98tr 柱穴出土瓦

4 小結

柱穴や土坑を検出した。これまで、本遺跡付近では瓦等がまともに表採され、古代寺院の可能性が考えられてきた。今回の調査では、柱穴や土坑を検出したが、部分的な調査であったため、これらの検出遺構が直接寺院に関連する遺構とは判断できなかった。原八幡神社付近で表採された土器や瓦を第4章総括で報告し、本遺跡の再評価を行いたい。

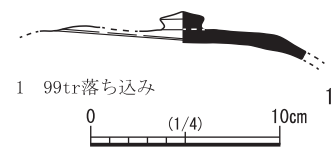


図 23 八幡原遺跡（薬師廃寺）
出土土器

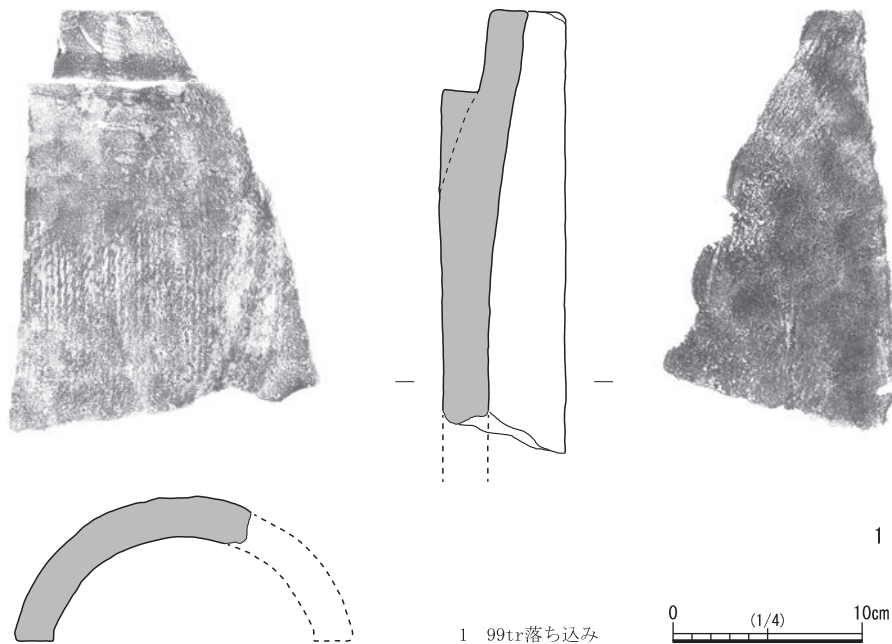


図 24 八幡原遺跡（薬師廃寺）出土瓦

第8節 遺跡の広がらない調査区

1 基本層序 (図 25 ~ 27、写真図版 11 ~ 15)

遺跡の広がらないと判断した調査区は、耕作土・床土直下で客土、河川堆積に由来する堆積を確認した。

18・20・37・43・46・49tr では地表面から 1 m 近く掘削を実施した結果、水分を多く含む粗砂～シルトの堆積を確認し、部分的に湧水がみられる調査区もあった。

57・58・62・63・69 ~ 71・74・76・78・82 ~ 85・88tr では中～巨礫を多数含む堆積層が確

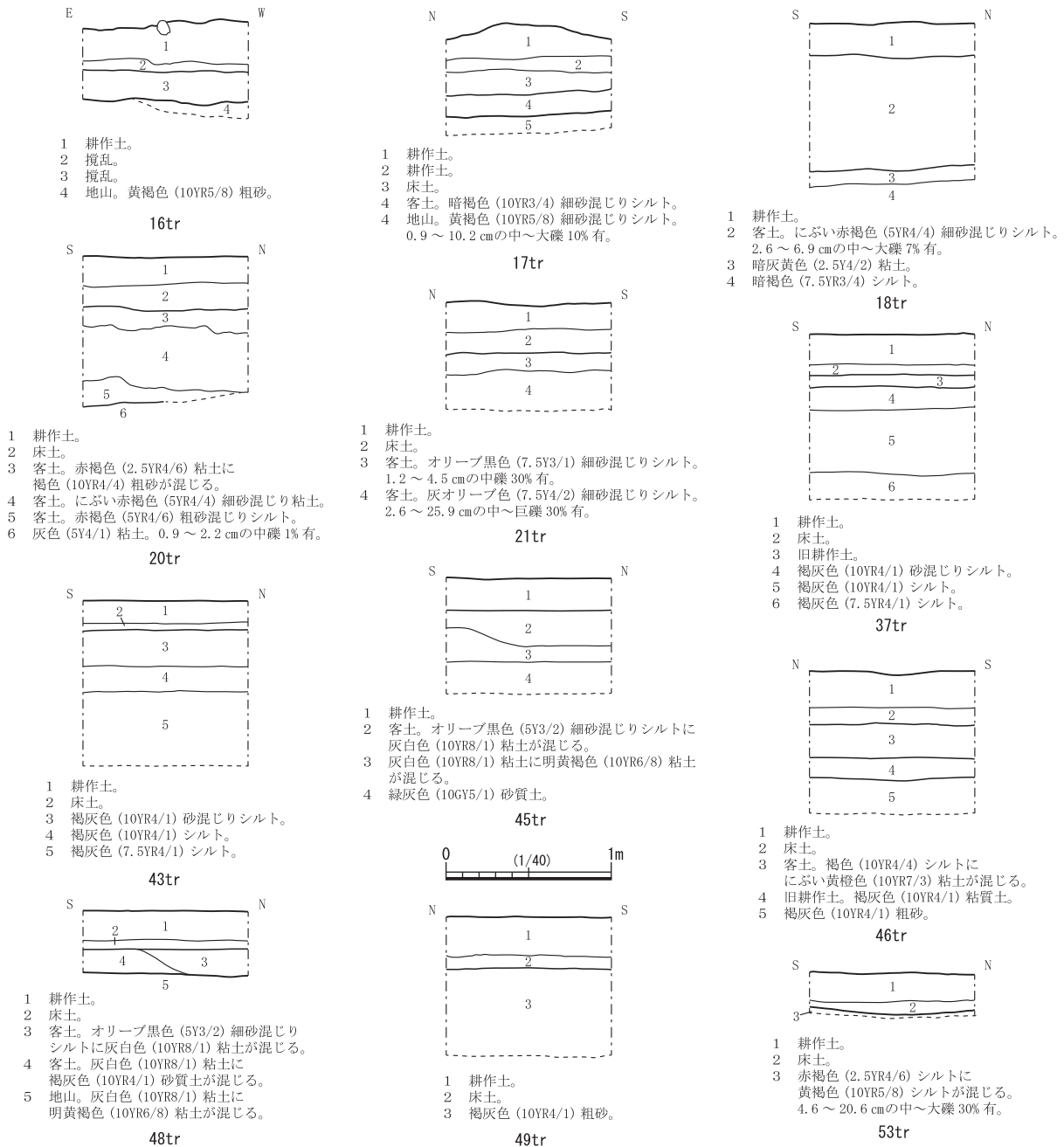


図 25 遺跡の広がらない調査区 土層断面図①

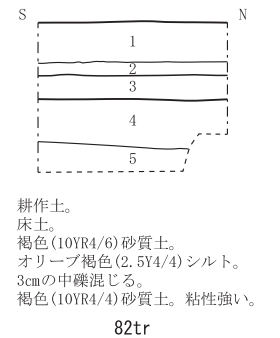
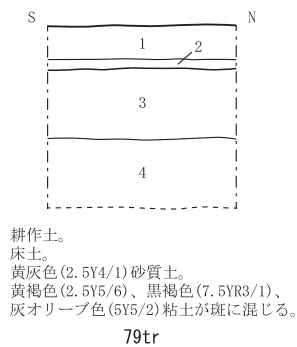
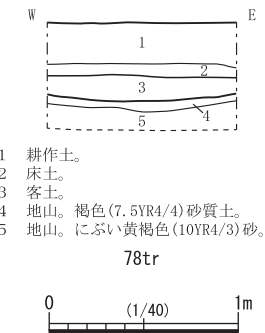
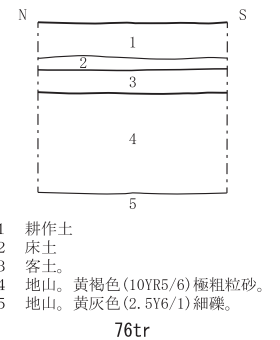
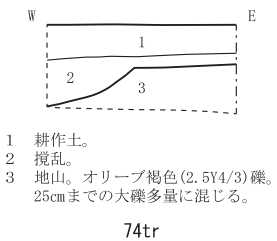
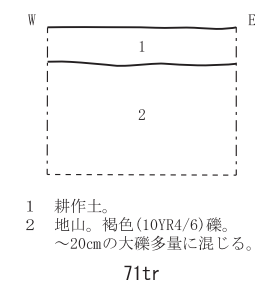
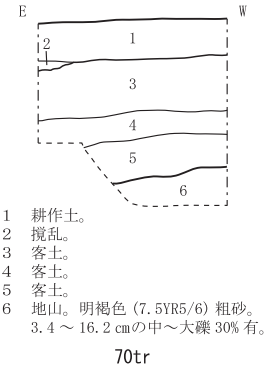
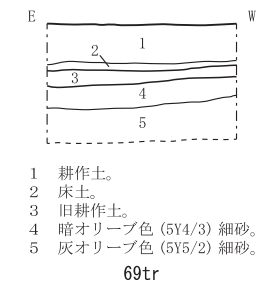
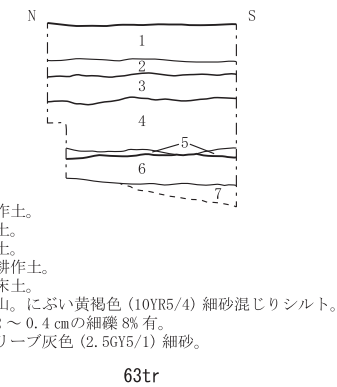
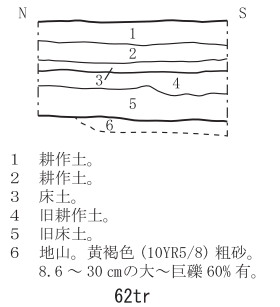
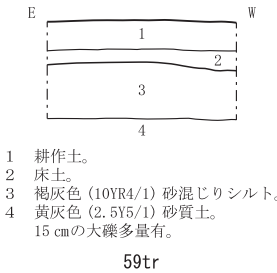
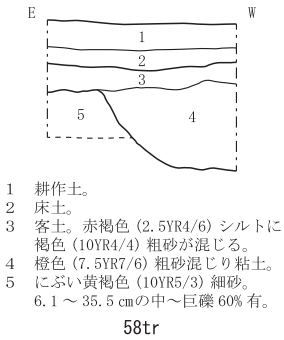
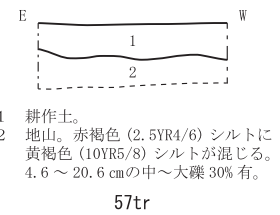
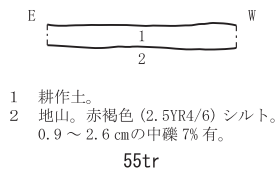
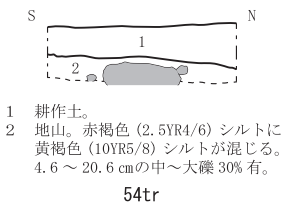


図 26 遺跡の広がらない調査区 土層断面図②

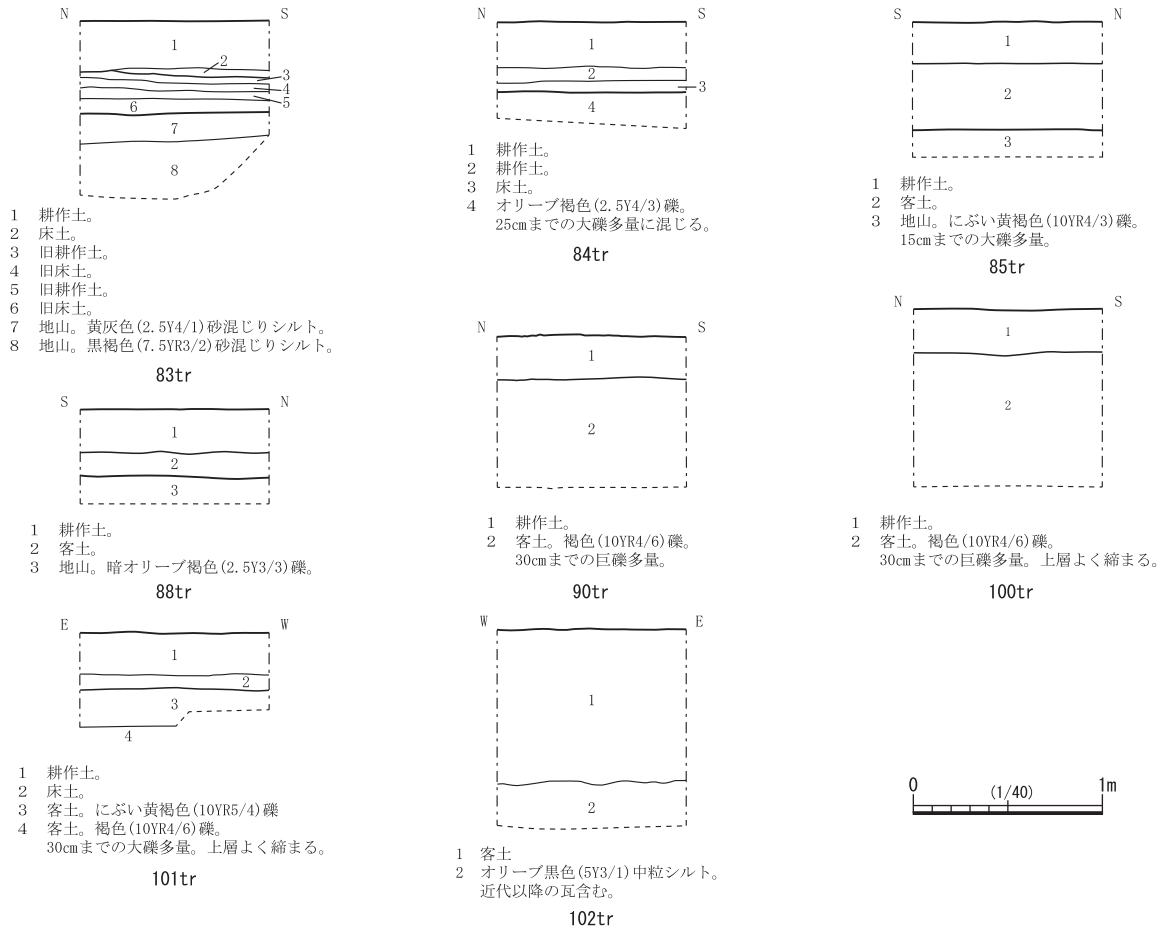


図 27 遺跡の広がらない調査区 土層断面図③

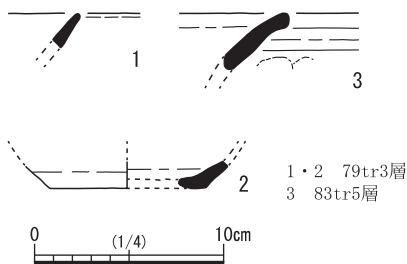


図 28 遺跡の広がらない調査区 出土遺物

3 小結

今回の調査では、亀の甲Ⅰ遺跡と亀の甲Ⅱ遺跡の間、亀の甲Ⅱ遺跡と大橋遺跡・宝殿塚遺跡の間に河川に由来する堆積が確認できた。調査地は、近接する各包蔵地より標高が低く、周辺より凹んだ場所に位置する。つまり、亀の甲Ⅰ遺跡と亀の甲Ⅱ遺跡の間、亀の甲Ⅱ遺跡と大橋遺跡・宝殿塚遺跡の間は、谷地形が存在し、それを挟んで遺跡が広がる様相が明らかとなった。その地形は、八幡原遺跡(薬師廃寺)の北側をとおり、西へ向かう様子が周辺の地形から読み取れる。

《参考文献》

- 中世土器研究会事務局 2015 「東播系須恵器鉢の分類と編年」『中近世土器の基礎研究』26、日本中世土器研究会
中野良一 2007 「中世伊予国の煮炊具について」『紀要愛媛』第7号、(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

第4章 総括

第1節 各遺跡の評価

団体営ほ場整備事業に伴う試掘調査は、平成28年度から令和3年度にかけて実施し、旧亀の甲遺跡内に遺跡の広がり確認できた。また、旧亀の甲遺跡範囲外にもその広がりが確認でき、新規で発見した遺跡も含め、包蔵地範囲を見直すこととなった。

今回の調査では、亀の甲Ⅰ遺跡、亀の甲Ⅱ遺跡、宝殿塚遺跡、山ノ端遺跡で中世期の遺物が出土し、その時期の遺構が広がる可能性が高くなった。これらの遺跡が所在する飯岡台地上では、この時期の遺跡として池の内遺跡が存在する。池の内遺跡では、12～14世紀代の柱穴や土坑が検出された。遺構・遺物量ともに少なく、大規模な遺構群が展開していないと考えられている（多田2009）。さらに周辺に目を向けると、下島山丘陵の裾部に天神山遺跡が存在する。天神山遺跡は、竪穴状の建物や掘立柱建物が検出され、12～16世紀頃の遺物が出土している（愛媛考古学研究所1993）。周辺の遺跡としては、これらの2遺跡を挙げるのができるのみで、中世遺跡の様相が明らかなものは少ない。今回の調査で、数少ない中世遺跡が発見されたことは大きな成果といえる。

八幡原遺跡（薬師廃寺）では、8世紀前半頃を中心とする時期の遺物が出土し同時期頃の遺跡が広がることが明らかとなった。原八幡神社付近で表採された瓦は、真導廃寺や新居浜市河内廃寺・正法寺から出土した瓦の文様とよく似ており（山内1987）、これらとの関係性が注目できる。

大橋遺跡は、遺構を検出したものの、調査ができた箇所が少なかったため、様相は不明である。遺跡周辺の地形をみると、大橋遺跡の北東側は、谷地形の中となる。そのため包蔵地範囲は、その方向には広がらないと考える。一方、西側は亀の甲・八幡原みんなの広場、北側は宝殿塚遺跡までほぼ同じ標高となるが、広場西側の道から北へ向かっては、標高が急に減じる。そのため、ほ場整備予定外で調査を実施していないものの広場と宝殿塚遺跡まで遺跡が広がる可能性がある。

以上のように今回の調査では、試掘調査という遺跡の存否確認であったものの、飯岡亀の甲地区でまとまった範囲を調査をすることができ、大きな成果を得た。今後の調査・研究により、さらに内容が明らかになることを期待するとともに、適切な文化財保護に努めていきたい。

第2節 八幡原遺跡（薬師廃寺）について

八幡原遺跡（薬師廃寺）は、これまでも述べてきたように寺院に関する遺構は今のところ検出されていないが、表採された瓦等から、古代寺院の存在が推定されている。本節では、表採された土器や瓦について、あらためて資料を紹介し、存続時期を考えてみたい。また、寺域についても先学により、検討が加えられているので、ここで述べておきたい。

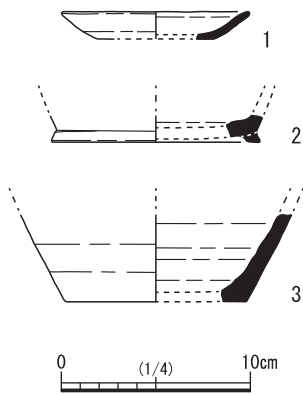


図29 原八幡神社付近
表採土器

1 表採された土器と瓦（図
29～34、写真図版16～18）

図29-1は土師器皿である。底部から口縁部にかけて直線的にのび、外方向に開く。底部に糸切り痕が確認できる。2は須恵器坏もしくは壺の底部である、高台が底部から体部にかけての立ち上がり際に位置する。3は須恵器壺である。外面にヘラケズリ、底部にヘラ切り痕が確認できる。1は江戸時代頃、2・3は8世紀後半頃を中心とする時期と考えられる。

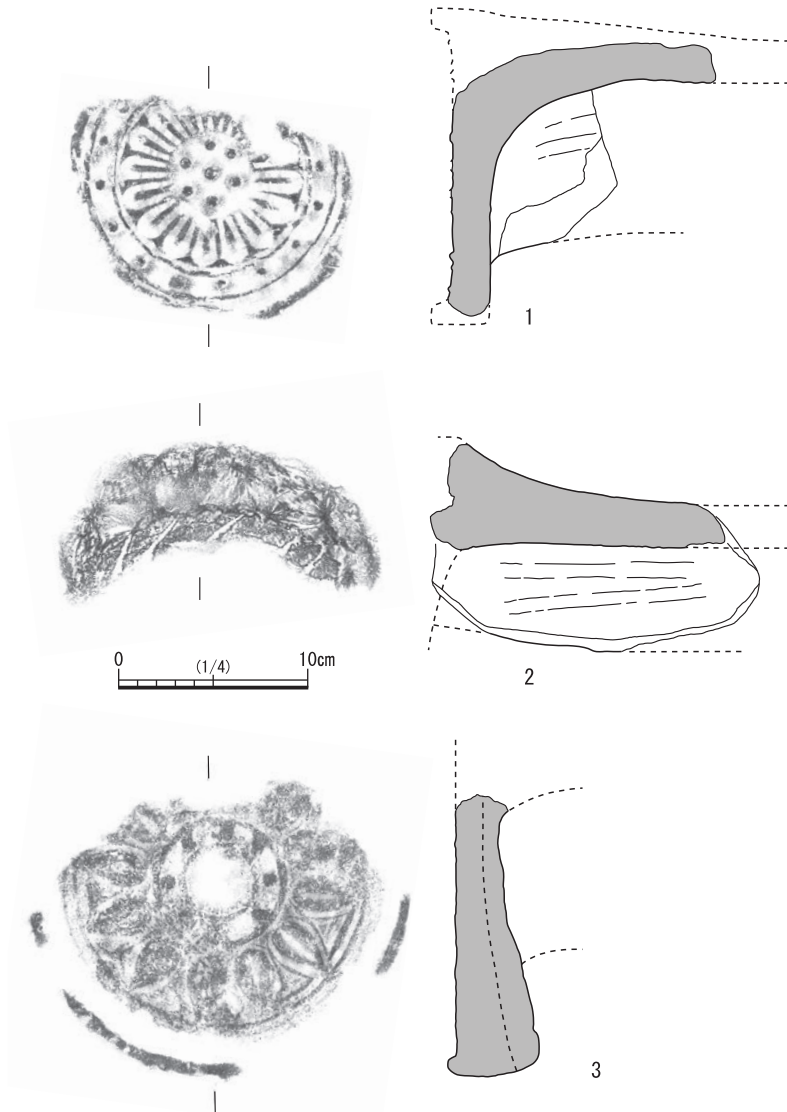


図30 原八幡神社付近表採軒丸瓦

図30-1は細弁16弁蓮華文軒丸瓦で、瓦当径は復元で15.8cmを測る。中房は1+6の蓮子が配される。2の軒丸瓦は、瓦当部が剥離しているため、文様は明らかではないものの、丸瓦部に瓦当との接着痕が確認できる。1・2ともに、丸瓦部凹面にナデが確認できる。3は単弁12弁蓮華文軒丸瓦である。瓦当径が20cmを超え、瓦当厚が下部にいくにつれ厚さを増す。中房に圏線が2条確認でき、圏線の間蓮子が8個配される。このような中房の表現は、朝鮮半島の新羅に比較的多くみられ、統一新羅瓦の影響を受けたものと考えられている（亀田1995）。1は8世紀後半頃、3は10世紀代と考えられる。

図31-1～3は均整唐草文軒平瓦で、直線顎である。1・2は平瓦部凸面から側面にかけて、3は平瓦部凸面に斜格子目状の叩き目が残る。1～3はともに凹面に布目痕が残る。1は8世紀後半頃、2・3は8世紀後半～9世紀初頭頃とみられる。

図32-1・2は丸瓦である。1の玉縁長は、5.5cmを測る。1・2ともに凸面の器壁は荒れ

ており、調整痕等は不明である。凹面は、布目痕が残る。2の凹面には、粘土板の合わせ目を確認できる。1・2は8世紀代とみられる。

図33-1・2は平瓦である。1・2の側面端部は部分的にケズリが施される。凸面に縄目、凹面に布目痕を確認できる。2の凹面には、粘土板の合わせ目を確認できる。1・2は8世紀代とみられる。

図34-1・2は平瓦である。1の側面端部はケズリが施される。硬質であり、内外面ともに自然釉がかかる。凸面は斜格子目状、凹面は布目痕を確認できる。2も側面端部に部分的にケズリが施される箇所がある。凸面は自然釉がかかるため、調整痕は明らかではないが、凹面は布目痕を確認でき、ナデによって消されている。1は7世紀後半～8世紀、2は7世紀末頃を中心とする時期と考えられる。

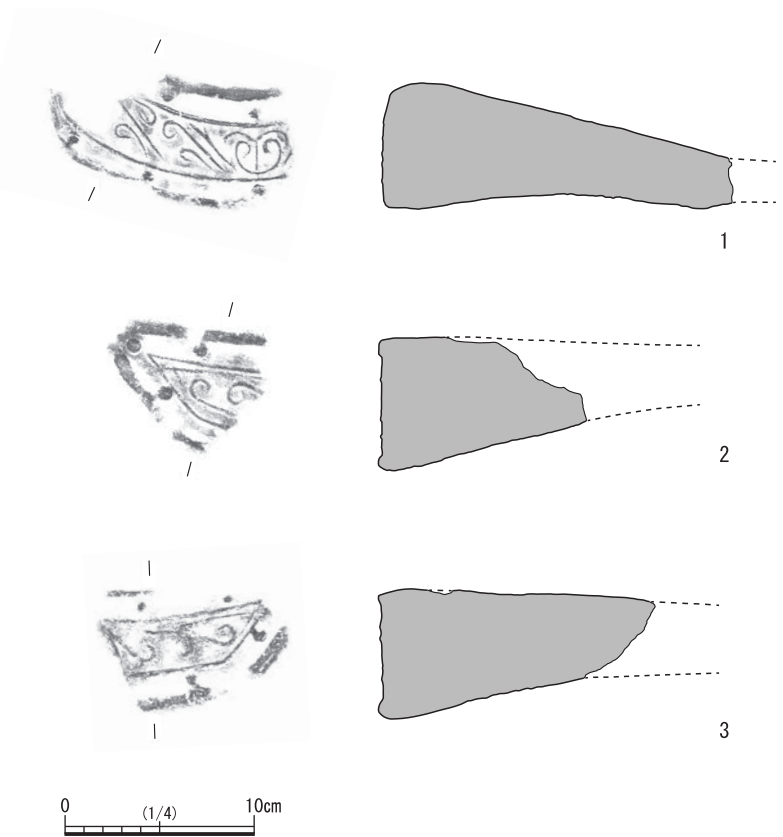


図31 原八幡神社付近表採軒平瓦

2 八幡原遺跡（薬師廃寺）の存続時期

八幡原遺跡（薬師廃寺）の存続時期は、8世紀後半頃を中心とする説（長井1977、1986）や7世紀後半頃～平安時代後期頃までとする説がある（山内1987）。先に紹介した飯岡公民館や西条郷土博物館で保管されている資料も、8世紀代を中心とする時期のものが多く、この頃には間違いなく古代寺院は存在していたと考えられる。7世紀後半～末まで遡る可能性のある資料は、山内が紹介した奈良県川原寺式の軒丸瓦によく似た資料のほか、公民館所蔵の図34-1・2の平瓦が少数あるに過ぎない。古手の瓦が新しい寺院に再利用される場合もあるため、創建時期を7世紀後半まで遡ることは断定できないと考える。しかしながら、7世紀後半頃の瓦が表採されていることは間違いなく、創建時期については、もう少し資料が増加してから検討すべき課題といえる。廃絶時期を示す資料は調査が行われていないため、定かではない。しかし、現在確認されている瓦の中では、山内によって個人蔵の資料に平安時代後期頃に比定できる瓦が報告されているため、量は少ないものの、その時期までは存続していた蓋然性は高いと考えられる。

以上のことから、八幡原遺跡（薬師廃寺）は、7世紀後半頃に成立していた可能性があり、平安時代後期頃まで存続していたと考えられる。

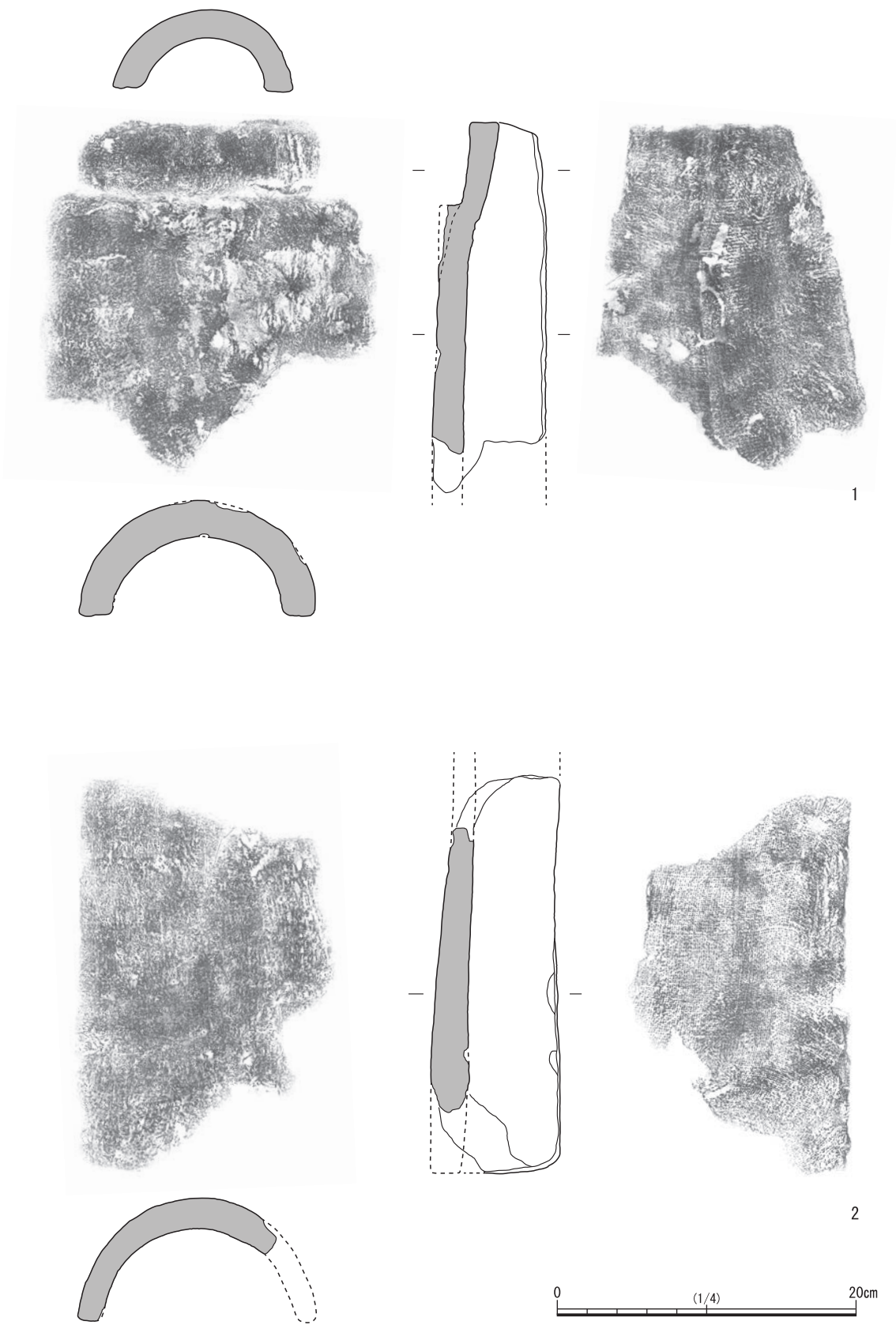


图 32 原八幡神社付近表採丸瓦

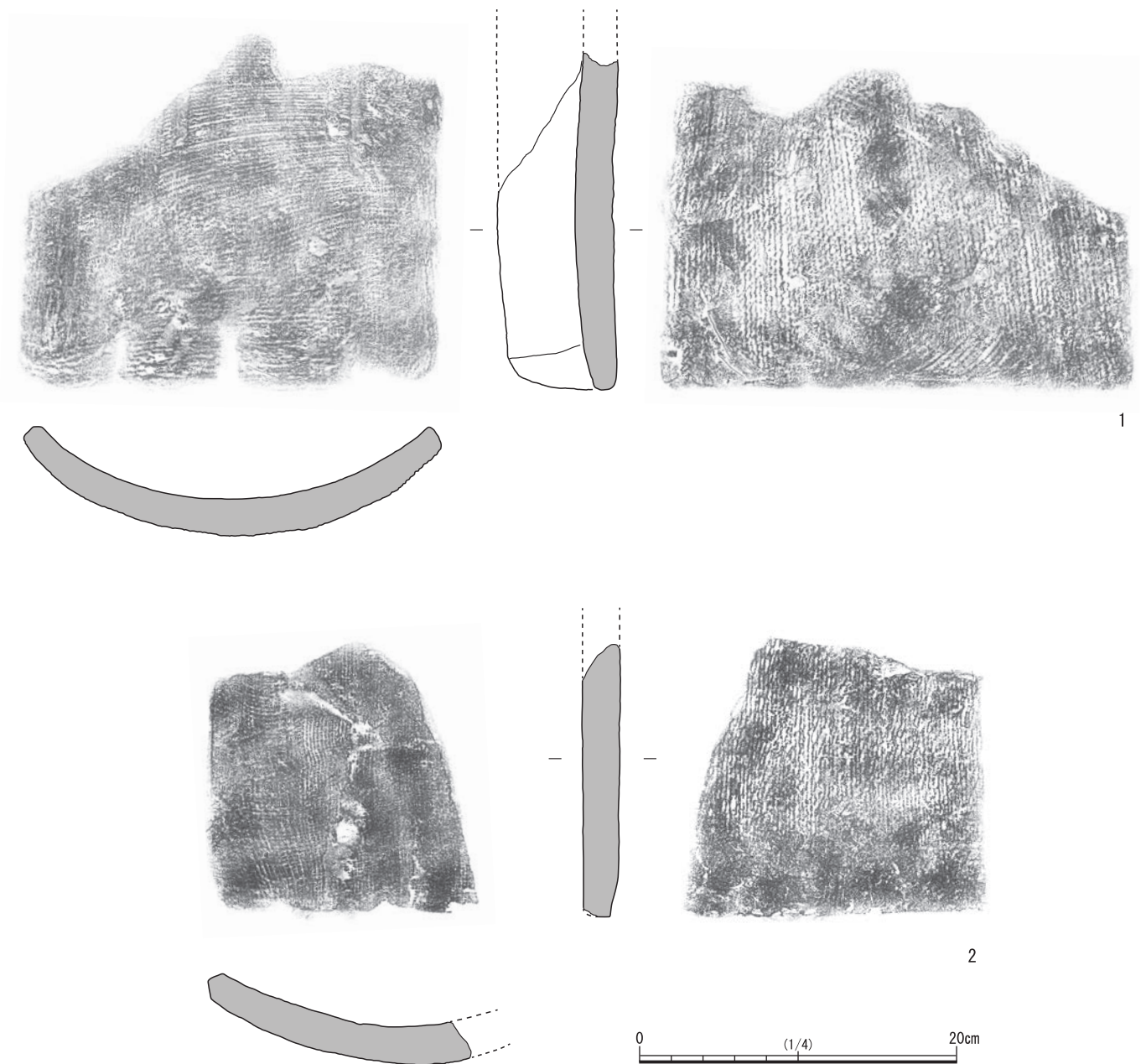


図 33 原八幡神社付近表採平瓦①

3 八幡原遺跡（薬師廃寺）の寺域と周辺の小字

寺域については、発掘調査をしておらず断定できないものの、原八幡神社境内を中心に約 120 m 四方で瓦が表採されているため、その範囲と考えられている（山内 1987、明比 1992）。なお、表採された瓦は、神社境内と八幡池に散布していたといわれている。

原八幡神社の南西側には、寺院に関連すると考えられる小字が残されている。それは「惣念坊」、「堂ノ本」、「金堂」である（図 35）。原八幡神社から小字までの距離をみると、「惣念坊」は約 240 m、「堂ノ本」は約 300 m、「金堂」は約 500 m それぞれ離れている。これらの小字が存在する範囲まで寺域に含まれるとしたら、かなり広大な寺院である。なお、これらの場所は上述の

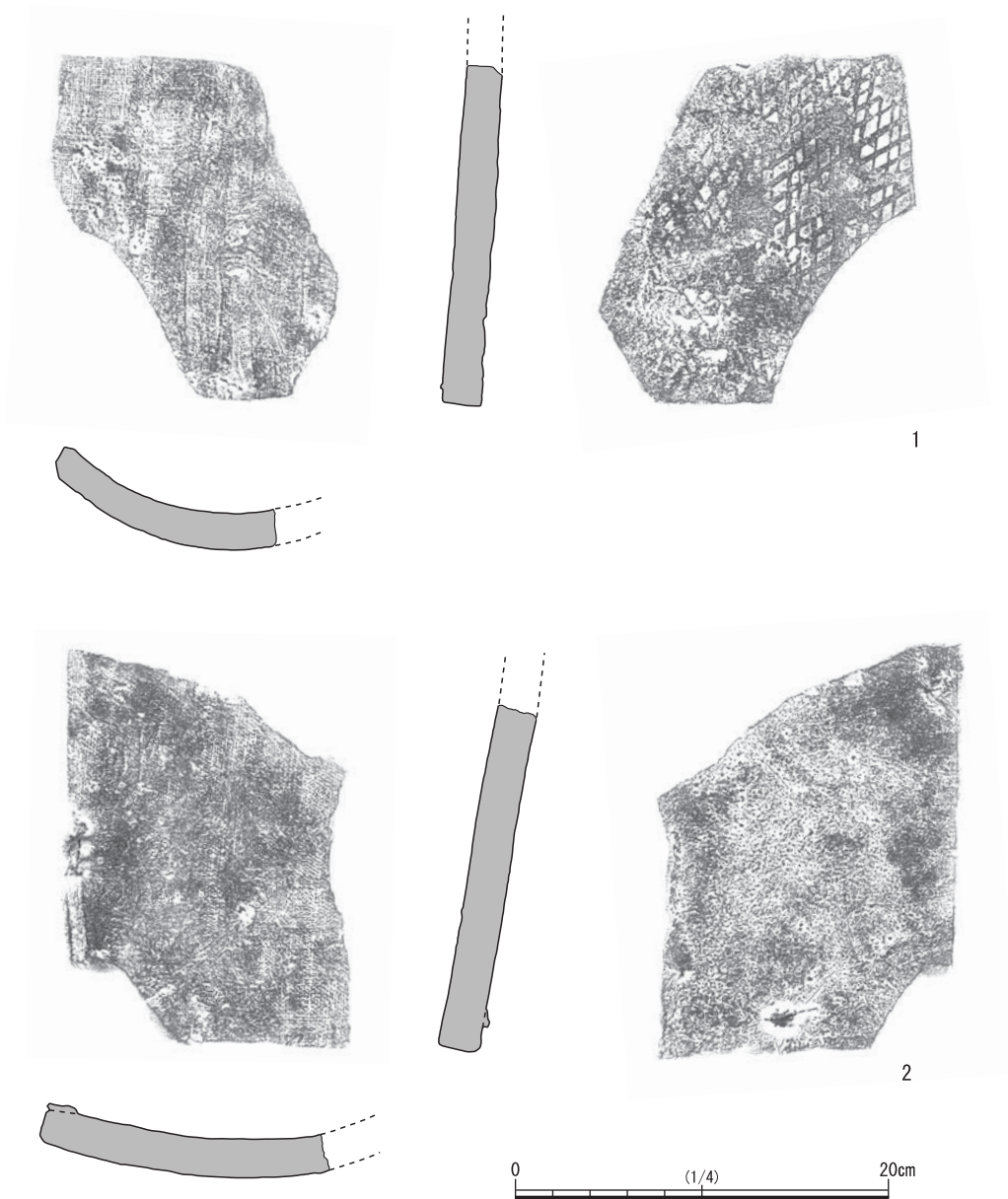


図 34 原八幡神社付近表採平瓦②

瓦表採範囲の外であるため、実際に寺院に関連するものか定かではない。小字がいつの時代につけられたものかなどの問題もあるが、古代寺院の周辺に寺院に関する小字名が残されていることは非常に興味深い。



図 35 八幡原遺跡（薬師廃寺）の瓦の散布範囲と周辺に残る寺院に関する小字

《参考文献》

- 明比 学 1992 「原八幡神社について」『西條史談』第 27 号、西條史談会
- 愛媛考古学研究所編 1993 『天神山遺跡』西条市教育委員会
- 小栗 梓 2007 「瓦の製作技法」『平成 19 年度春季特別展 河内古代寺院巡礼』大阪府近つ飛鳥博物館図録 44、大阪府近つ飛鳥博物館
- 亀田修一 1995 「2 吉備の朝鮮系瓦」小田富士雄・武末純一・亀田修一・金誠亀「日韓古瓦文化の交渉研究（二）－西日本の初期寺院資料を中心に」『青丘学術論集』第 7 集、(財) 韓国文化研究振興財団
- 多田 仁編 2009 『池の内遺跡 2 次調査』埋蔵文化財発掘調査報告書第 151 集、(財) 愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 長井数秋編 1977 『伊豫国真導廃寺跡発掘調査報告書』愛媛県教育委員会
- 長井数秋 1986 「薬師廃寺跡」『愛媛県史 考古編』愛媛県史編さん委員会
- 森 郁夫 1986 『瓦』考古学ライブラリー 43、ニュー・サイエンス社
- 山内隆夫 1987 「新居郡薬師廃寺の古瓦」『伊豫史談』264 号、伊豫史談会

表2 遺物観察表（土器）

（※※）：復元値 [※※]：残存値

図	資料 No.	写真 図版	地区	層・ 遺構	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考	
							口径	底径	器高		
11	1	4	51tr	3層	須恵器	鉢			[2.45]	東播系。	
	2		38tr	5層	土師器	鍋 or 釜			[4.4]		
14	1	6	40tr	溝	土師器	釜			[2.7]		
	2			溝	瓦質土器	甕			[4.5]	外面：格子目状のタタキ。	
23	1	10	99tr	落ち込み 状遺構	須恵器	蓋			[2.5]		
28	1	15	79tr	3層	土師器	坏			[1.8]		
	2				土師器	坏		(8.2)	[1.4]		
	3		83tr	5層	土師器	鍋			[2.95]	外面：ユビオサエ。	
29	1	18	表採		土師器	皿	(10.0)	(6.2)	[1.45]	底部：糸切り。	
	2		八幡ウラ		須恵器	坏 or 壺			(11.0)	[1.4]	
	3		神城より東北 55 m		須恵器	壺			(9.6)	[4.6]	

表3 遺物観察表（軒丸瓦）

図	資料 No.	写真 図版	表採場所	内区文様	瓦当径 (cm)	中房径	連子数	特徴・備考
30	1	16	稲荷さん前	細弁 16 弁蓮華文	(15.8)	4.5	1 + 5	飯岡公民館蔵。
	2						瓦当の接合痕あり。飯岡公民館蔵。	
	3			単弁 12 弁蓮華文	(20.4)	7.0	8	中房に2条の圈線。統一新羅瓦の影響か。西条郷土博物館蔵。

表4 遺物観察表（軒平瓦）

図	資料 No.	写真 図版	表採場所	内区文様	瓦当幅 (cm)	全長 (cm)	厚さ (cm)	特徴・備考
31	1	16	亀の甲	均整唐草文	[13.6]	[18.5]	6.6	凸面は格子目状のタタキが残る。西条郷土博物館蔵。
	2			均整唐草文	[8.0]	[11.0]	7.0	凸面は格子目状のタタキが残る。西条郷土博物館蔵。
	3			均整唐草文	[10.0]	[14.6]	6.9	范傷あり。凸面は格子目状のタタキが残る。西条郷土博物館蔵。

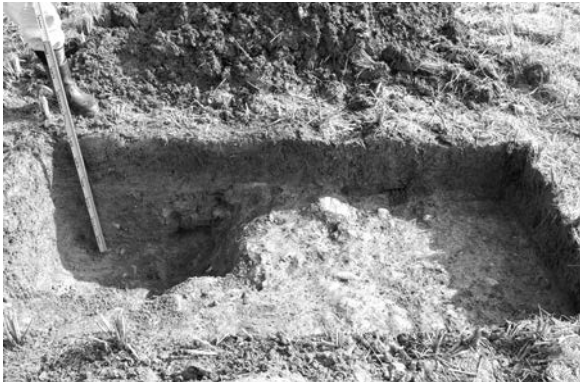
表5 遺物観察表（丸瓦）

図	資料 No.	写真 図版	出土・表採場所	種類	全長 (cm)	幅 (cm)	特徴・備考
24	1	10	99tr 落ち込み状遺構	有段式	[23.5]	[13.4]	
32	1	17	八幡社	有段式	[24.8]	[15.8]	凹面に粘土板の合わせ目痕跡有。飯岡公民館蔵。
	2		八幡社		[26.7]	[13.3]	飯岡公民館蔵。

表6 遺物観察表（平瓦）

図	資料 No.	写真 図版	表採場所	種類	全長 (cm)	幅 (cm)	特徴・備考
33	1	17	八幡社	桶巻き作り	[21.2]	26.4	飯岡公民館蔵。
	2		神城より東北 50 m	桶巻き作り	[17.2]	[16.7]	凹面に粘土板の合わせ目痕跡有。飯岡公民館蔵。
34	1	18	神城より東北 50 m	桶巻き作り	[18.3]	[11.8]	硬質。凸面格子目状タタキ。飯岡公民館蔵。
	2			桶巻き作り	[18.6]	[15.5]	硬質。飯岡公民館蔵。

写 真 图 版



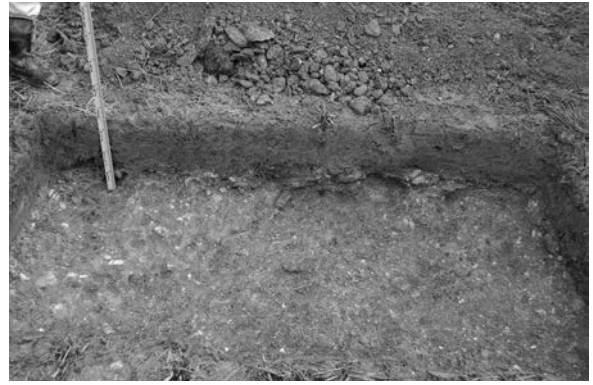
1 1 tr 東壁



2 2 tr 東壁



3 3 tr 東壁



4 4 tr 東壁



5 5 tr 東壁



6 6 tr 南壁



7 7 tr 東壁



8 8 tr 東壁



1 9tr 東壁



2 10tr 東壁



3 11tr 東壁



4 12tr 東壁



5 13tr 西壁



6 19tr 東壁



7 29tr 南壁



8 30tr 西壁



1 31tr 東壁



2 32tr 西壁



3 33tr 西壁



4 34tr 西壁



5 35tr 西壁



6 36tr 西壁



7 36tr 遺構検出状況



8 38tr 西壁



1 41tr 西壁



2 41tr 遺構掘削状況



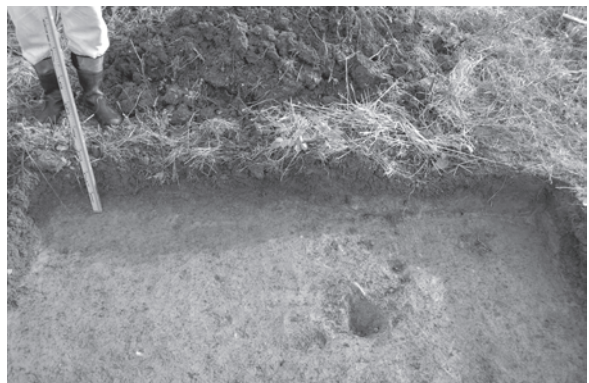
3 44tr 西壁



4 50tr 北壁



5 51tr 西壁



6 52tr 東壁





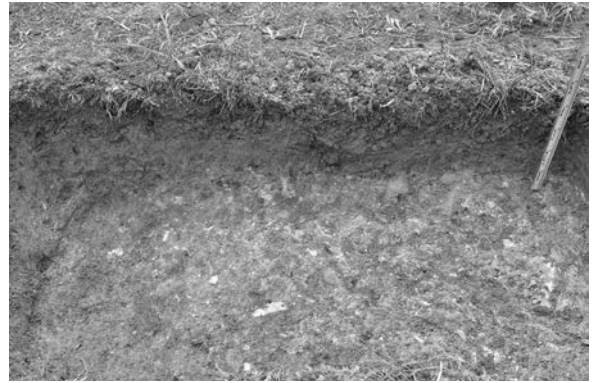
1 22tr 東壁



2 22tr 遺構掘削状況



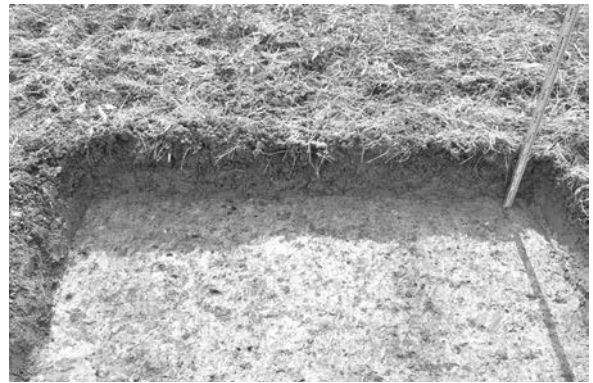
3 23tr 西壁



4 24tr 西壁



5 25tr 西壁



6 26tr 西壁



7 27tr 東壁



8 28tr 東壁



1 39tr 西壁



2 40tr 西壁



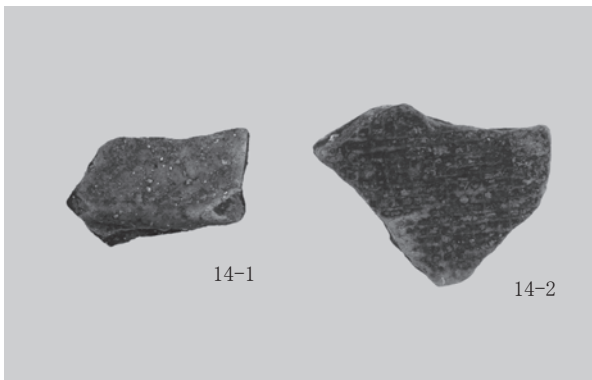
3 42tr 西壁



4 61tr 東壁



5 65tr 西壁





1 64tr 東壁



2 64tr 遺構掘削状況



3 宝殿塚遺跡近景



4 66tr 北壁



5 67tr 西壁



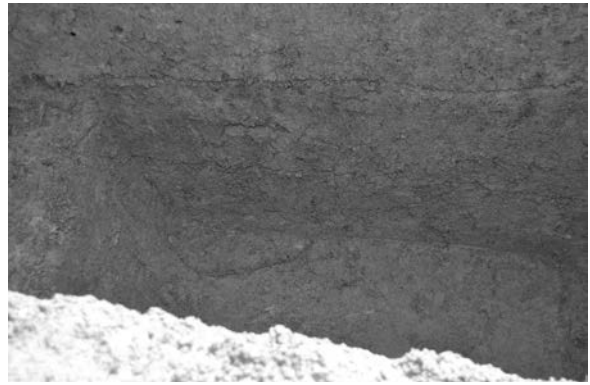
6 67tr 遺構検出状況



7 68tr 東壁



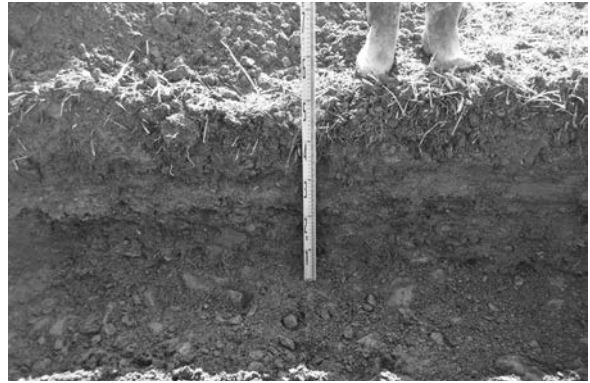
1 75tr 東壁



2 75tr 遺構検出状況



3 77tr 西壁



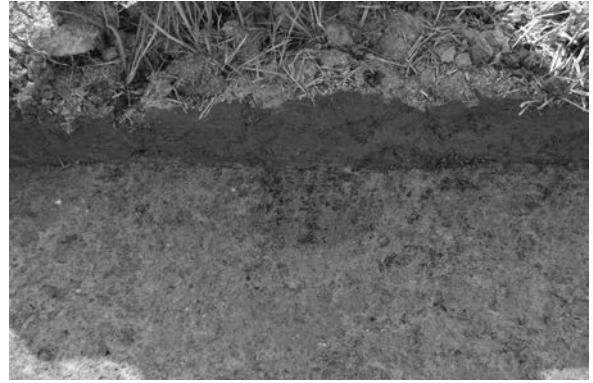
4 86tr 西壁



5 87tr 西壁



1 91tr 西壁



2 91tr 遺構検出状況



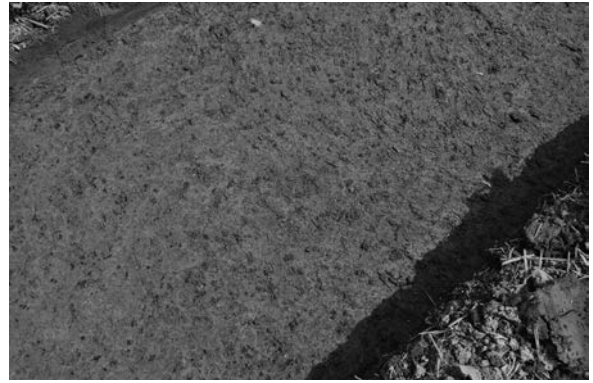
3 92tr 東壁



4 93tr 東壁



5 94tr 西壁



6 94tr 遺構検出状況



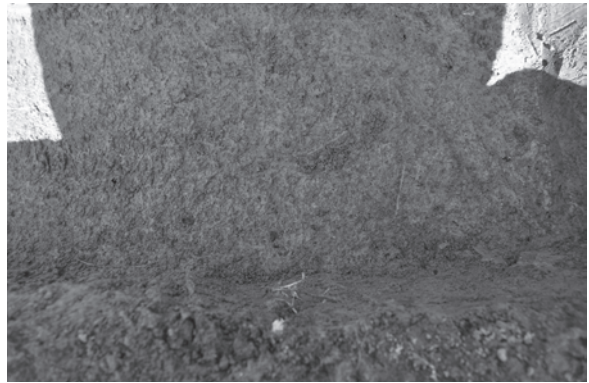
7 95tr 南壁



8 96tr 西壁



1 98tr 東壁



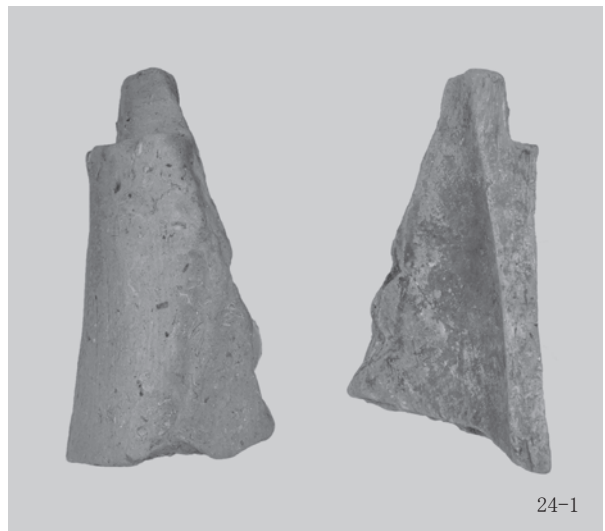
2 98tr 遺構検出状況



3 99tr 西壁



4 99tr 遺構検出状況





1 16tr 南壁



2 17tr 東壁



3 18tr 西壁



4 20tr 西壁



5 21tr 東壁



6 37tr 西壁



7 43tr 西壁



8 45tr 西壁



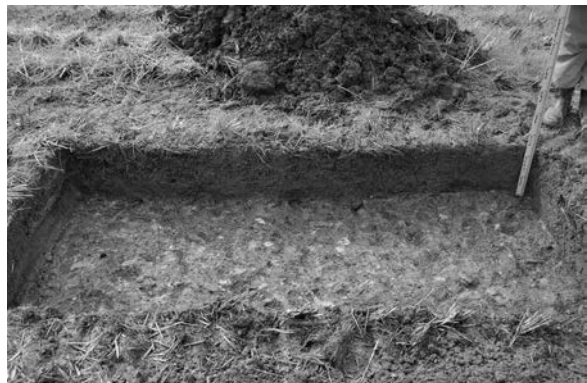
1 46tr 東壁



2 48tr 西壁



3 49tr 東壁



4 53tr 西壁



5 54tr 西壁



6 55tr 南壁



7 57tr 南壁



8 58tr 南壁



1 59tr 南壁



2 62tr 東壁



3 63tr 東壁



4 69tr 南壁



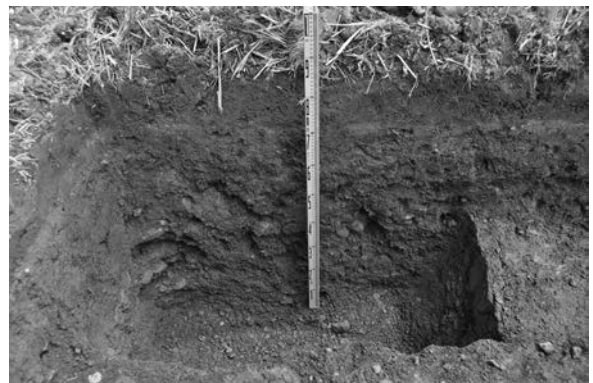
5 70tr 南壁



6 71tr 北壁



7 74tr 北壁



8 76tr 東壁



1 78tr 北壁



2 79tr 西壁



3 82tr 西壁



4 83tr 東壁



5 84tr 東壁



6 85tr 西壁



7 88tr 西壁



8 90tr 東壁



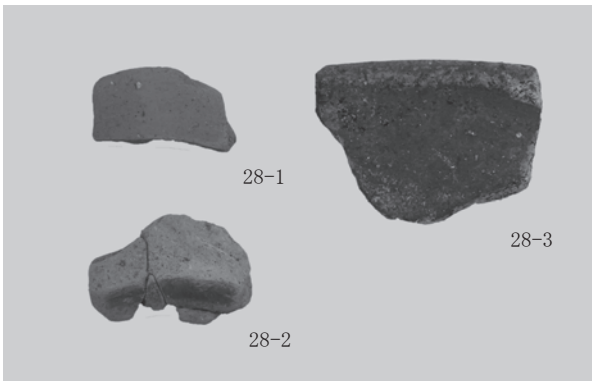
1 100tr 東壁

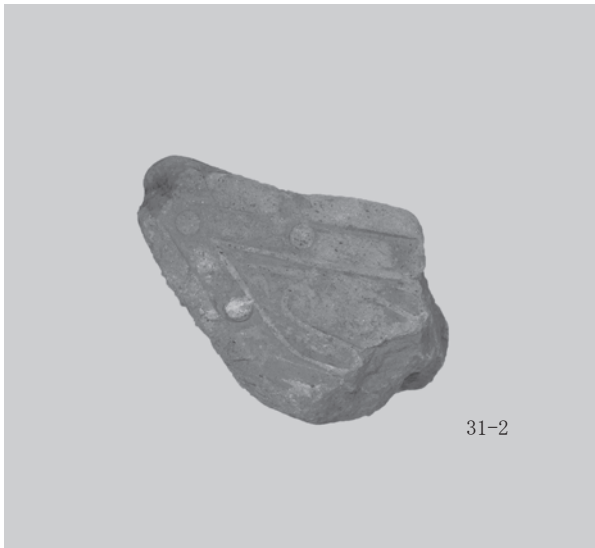
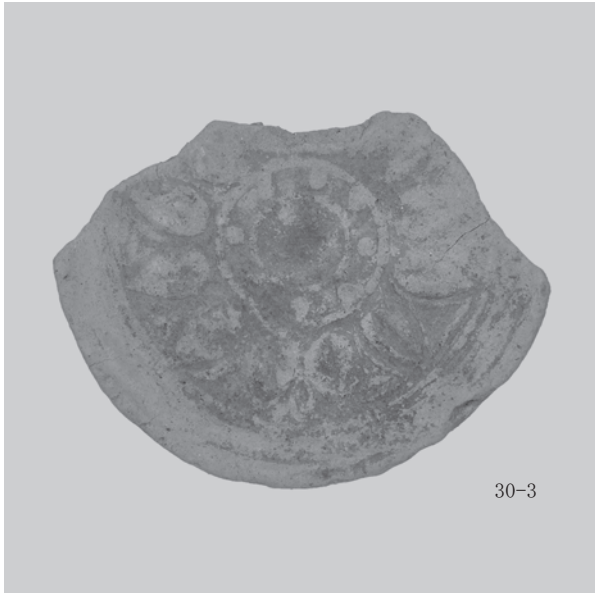


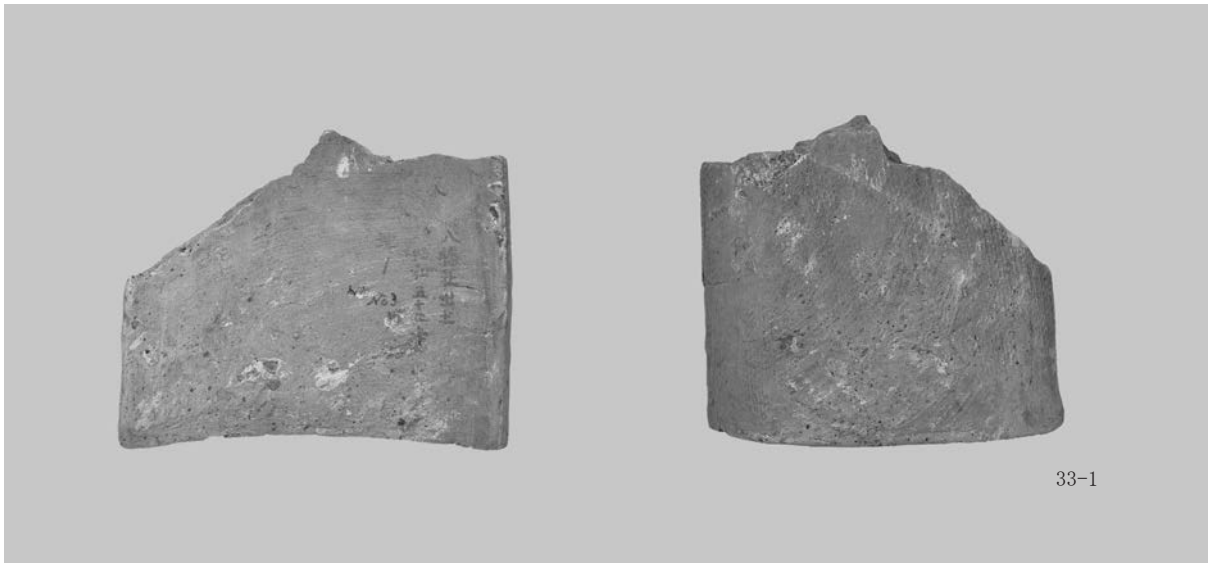
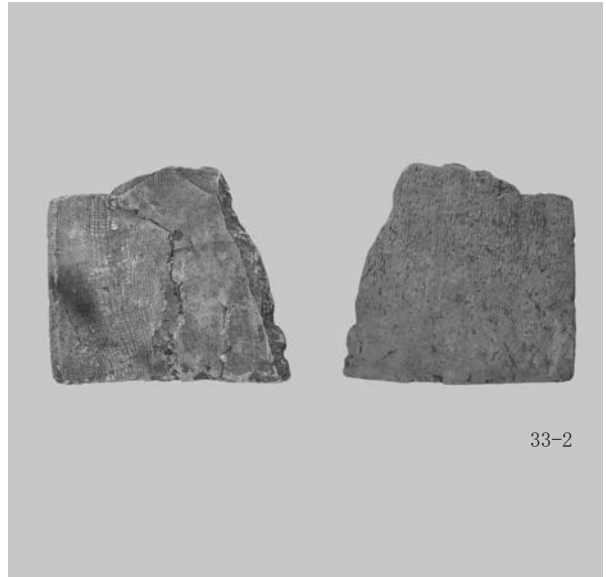
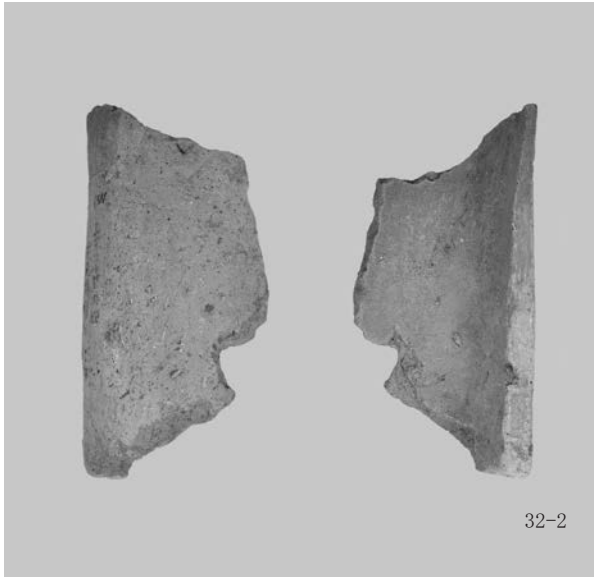
2 101tr 南壁

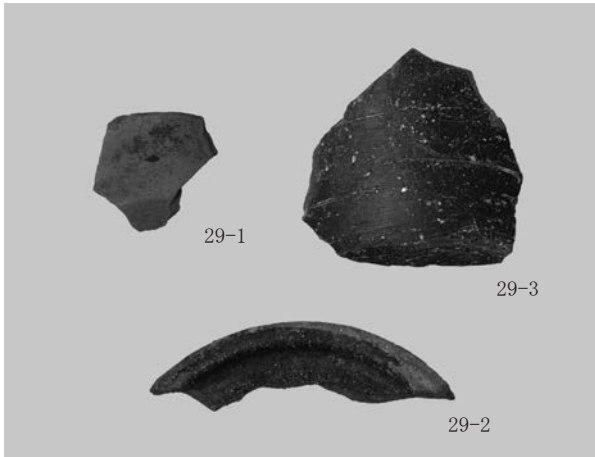


3 102tr 北壁









報 告 書 抄 録

ふりがな	しないいせきしくつちょうさほうこくしょ								
書名	市内遺跡試掘調査報告書2								
副書名	団体営ほ場整備事業に伴う試掘調査報告書								
シリーズ名	西条市埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ番号	第8集								
編著者名	岡島 俊也								
編集機関	西条市教育委員会								
所在地	〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷164番地 TEL (0897) 56-5151 (代)								
発行年月日	2023年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		。北, 緯, "	。東, 経, "	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村番号	遺跡番号						
かめのこうまいせき 亀の甲Ⅰ遺跡	えひめけんさいじょうしいいせき 愛媛県西条市飯岡	38206		33° 55' 15"	133° 14' 31"	20160425	57 m ²	団体営ほ場整備 事業	
かめのこうまいせき 亀の甲Ⅱ遺跡				33° 55' 15"	133° 14' 31"	20160427 20160613			24 m ²
おおほしいせき 大橋遺跡				33° 55' 13"	133° 14' 28"	20160615 20161128			2 m ²
ほうでんづかいせき 宝殿塚遺跡				33° 55' 14"	133° 14' 24"	20161206 20170112 20170224			15 m ²
やまのはないせき 山ノ端遺跡				33° 55' 11"	133° 14' 43"	20180510 20180514			8 m ²
はちまんばらいせき 八幡原遺跡 (薬師廃寺)				33° 55' 15"	133° 14' 16"	20190417 20190419			16 m ²
遺跡の広がらない 調査区			33° 55' 17"	133° 14' 26"	20160425 20160427 20160613 20160615 20161128 20161206 20170112 20170224 20180510 20180514 20190417 20190419 20210307	69 m ²			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
亀の甲Ⅰ遺跡	集落跡	中世	柱穴、土坑	土師器、須恵器	
亀の甲Ⅱ遺跡	集落跡	中世	柱穴、土坑	土師器	
大橋遺跡	集落跡	不明	土坑		
宝殿塚遺跡	散布地	古墳・中世	溝、土坑	瓦	
山ノ端遺跡	集落跡	弥生・中世	柱穴	弥生土器・土師器	
八幡原遺跡 (薬師廃寺)	社寺跡	古墳・古代	柱穴、土坑	須恵器・瓦	
要約	<p>今回の試掘調査では、遺跡の広がりを確認することができた。亀の甲Ⅰ・Ⅱ遺跡、宝殿塚遺跡、山ノ端遺跡は、出土遺物は少ないものの、中世を中心とする時期の遺跡と考えられる。八幡原遺跡（薬師廃寺）は、寺院に関わると考えられる遺構を検出できなかった。しかし、表採された土器や瓦等を含めた検討から、7世紀後半に建立された可能性があり、平安時代後期頃まで存続したと考えられる。</p>				

西条市埋蔵文化財発掘調査報告書第8集

市内遺跡試掘調査報告書2

団体営ほ場整備事業に伴う試掘調査報告書

2023年（令和5年）3月31日

編集・発行 西条市教育委員会
愛媛県西条市明屋敷164番地

印刷 有限会社 野口印刷所